



# 東京清陵会だより

**第29号**

発行 **東京清陵会**(諏訪清陵高等学校同窓会・東京支部) 会長=平林千義 編集 事務局 <http://tseiryu.com/index.html>  
事務局 TEL 080-3939-0266 mail [tokyoseiryokai2017@gmail.com](mailto:tokyoseiryokai2017@gmail.com) DTP=スタジオパラム

## ～会報29号によせて～

みなさん、こんにちは。「東京清陵会だより」29号をお届けします。「東京清陵会だより」、創刊は「東京支部だより」として1990年9月17日に刊行されました。当時の東京支部長は小平祐さん(42回生)でした。小平祐さんには東京清陵会草創期から現在に至るまで大変ご尽力いただきました。昨年惜しくもお亡くなりになりました。詳しくは本号に寄せられた追悼文をご参照下さい。

東京清陵会に参画された方の中には、「諏訪清陵高校同窓会東京支部」がどうして「東京清陵会」と呼称するのか疑問をお持ちの方もいらっしゃると思います。かつて私もそのひとりでした。「東京支部だより」4号(1993年9月発行)の小平祐さんの文章の中に下記記述があります。「(前略)同窓会東京支部を、東京清陵会と呼ぼうという案が検討されている。その考え方は、我々は故郷を離れ、母校への思い入れは格別であり、人数も多い。「支部」より「会」のほうがイメージがアップし、メンバーの参画意識が高まって活

性化するだろう(後略)。

オール清陵同窓会としては、その統制が乱れるのではないかと懸念もあったが、東京地区が活性化すればオール同窓会も発展するだろうということから、呼称を「東京清陵会」とすることに決定しました。従って「東京支部だより」は4号で終了し、5号からは「東京清陵会だより」と名称を変え小口禎三さん(36回生)揮毫による題字に変更しました。ちなみに1～4号の題字は書家渡部清さん(56回生)によるものです。「東京支部だより」創刊の年、本部の「清陵同窓会報」は16号でした。本部同窓会報の創刊は1976年(昭和51年)1月20日です。同窓会長は大森栄さん(22回生)でした。15年遅れで東京独自の会報ができた訳です。

その時の先輩方の意気込みが紙面からもうかがえます。「東京支部だより」創刊号の編集は当時の事務局長林尚孝さん(52-55回生)のもと寺島亮三さん(58回生)、有賀一温さん(75回生)が担当し

会長  
平林千義(67回生)



ました。その後号を重ねるうちに、総会の世話役だった当番幹事が会報の編集も受け持つことになり、現在まで続けております。当時サラリーマンの定年は55歳が一般的でした。定年の歳を当番幹事と決めたようです。清陵の卒業生には、新聞、出版、放送、映画等々メディア関連の仕事に従事している方が多く、幹事学年が来るのを手ぐすね引いて待っている学年も多々ありました。

「東京清陵会だより」は単なる会報の域を超えている、と高評価です、その道のプロ達が登場、あるいは間接的に関わって作っているのだから当然と言えば当然ですが。当番幹事になった学年は当該会報のテーマ作りから議論を始めています。そのテーマに基づいて取材を行い、記事にするのが通例になっております。号を重ねるたびに充実してきたようです。編集方針、内容、全て当該学年幹事にお任せです。事務局からは、「予算枠の提示」

**2018年度**

## 東京清陵会 第52回総会案内

■日時:2018年10月7日(日)12時～16時30分

●総会:12時～(受付開始11時30分～)

〈昼食の用意はございません〉

●開会式:12時45分～

●東京清陵会の取り組み報告:13時10分～

●東京清陵談話会:13時30分～(パネリスト提言・自由討論)

●懇親会:14時10分(お楽しみ大抽選会も開催!!)

●閉会式:16時～16時30分

■場所:アルカディア市ヶ谷(私学会館)3階「富士の間」

東京都千代田区九段北4-2-25 電話 03-6685-0541

※市ヶ谷駅(JR、東京メトロ有楽町線、南北線、都営新宿線)下車、徒歩2分

■懇親会会費:8,000円 ※今年から変更になっています

(60回生以前6000円、103回生～114回生6000円、115回生以下2000円)

※当番幹事:85回生有志+事務局、次期当番幹事86回生

サブ幹事90回生、95回生、105回生、115回生、119回生(学生幹事)

※年会費未納の方は当日お支払お願いいたします(賛助金も受付けます)。

※詳細は本文(P4・P5)を参照してください。

●ご面倒ですが

出席、欠席いずれの場合でも 同封の返信用はがきにご記入の上、

**9月14日(金)必着にてご返送ください。**

●返信ハガキ裏面は、個人登録情報に、変更ある場合のみ記載する方式にしました。変更ない場合は、氏名、回生のみ記載の上、チェックボックスにをしてください。

と「総会通知に間に合せること」だけです。毎年どんな作品ができあがってくるか楽しみです。郵送料を節約するために、紙質と紙の量を極限まで減らす検討をしたり、絵画や星雲の写真を美しく見せるためにカラー印刷にしたり、読みやすさを狙い、字の大きさを変えたり、横書きにしたり等々、皆さんの創意工夫と努力のあとがうかがえます。

当番幹事を機に、老後を乗り切る仲間

集めができたり、クラス会、同期会、趣味の会、遊びの会の頻度が増えているようです。ただ一昔前の55歳は第一の人生を卒業し、精神的にも、時間にもゆとりがあった時期だったのに、いまや定年は65歳の時代、55歳は脂の乗り切った働き盛り、当番幹事も再検討しなくてはならない時期にきているかなと思う昨今です。

来年は記念の30号です。期待して待つ

ていて下さい。東京清陵会は「清陵で学んだということを誇りに思える場」、「母校を愛する気持ちを具現化する場」であり、その場を用意するのが事務局の仕事とっております。事務局は清陵馬鹿を自認するボランティアの集まりです。運営資金は全て会員の会費と賛助金です。

今後とも皆さんのより一層のご支援とご協力を宜しくお願いいたします。

## 東京清陵会の魅力を再定義し、高めていきましょう

# ～先輩に学ぶ、後輩に繋ぐ～

生き方、価値観の多様化、女子同窓生の増加、再来年の春に付属中学一期生が大学進学など変化の局面です。そこで今年の総会当日は、「同窓会を再考する」をテーマに、ミニパネルと談論会を計画しています。それに先立ち、東京清陵会の現況、最近の活動をお伝えし、私見ながら持続的成長へのアイデアを示しました。当日の議論の参考にしていただければ幸いです。

### 1. 東京清陵会の現況

1) 潜在会員：東京清陵会の登録会員数は三千人余りですが、首都圏在住ながら未登録の潜在会員は二千人いると推定され、あわせると五千人いる勘定です。

2) 学年別の登録会員：83回生までは概ね70人以上、90回生までは40人以上が登録していますが、91回生以降は20数人以下、98回生以降は一桁です。「新卒歓迎学生交流会」をおこなった116回生以降は10数人から20人前後登録しています。各学年ではSNSなどで相応の人数を把握しているようです。

3) 年会費または賛助金：あわせて500人弱が納入（納入率15%）。一般に同窓会の会費納入率は10～20%と言われ、当会は平均程度です。納入率は同窓会の魅力のパロメーターの一つと言えます。

### 2. 東京清陵会の魅力・役割とは

東京清陵会の活動目的は、①交流・親睦、②研鑽、③母校生徒郷里への応援、を三本柱と位置付けています。同窓生の魅力が、母校・同窓会の魅力に繋がります。

活躍する同窓生は憧れ、誇りでもあり、広く知って頂きます。さらに魅力ある同窓生、世の中に貢献する人材の輩出をサポートする仕組みを作ることも同窓会の役割の一つです。

### 3. 最近の主な活動

1) 活躍する同窓生情報を伝える  
会報で、活躍する同窓生をテーマ設定して紹介しています。東京会報では、2015年、母校120周年記念の活躍する同窓生特集で1～82回生を網羅的に紹介する試みをしました。「同期会紹介」や、「いろんな清陵会」の紹介など継続的に掲載しています。

2) 若手中堅同窓生をサポートする  
①「新卒歓迎学生交流会」で同窓会を知ってもらい、②「働くことを考える若手の会」で就活から30歳位の仕事定着をサポート、③「ミドル交流会」で30～40歳台が社会の中堅としての活躍できるよう先輩との交流を支援します。適宜、当事者学年に開催幹事をお願いしています。  
④「女子会」も趣向を凝らして継続開催中、⑤「清陵勉強会」も、継続開催中で、中堅同窓生の講師も増えて来ています。

3) 母校、生徒を応援する  
中学研修旅行での職場見学（15ヶ所程度）は今年度で3年目、高校キャリア教育等への講師派遣（10人前後）も2年目です。講師・職場受け入れ協力登録は40人程度います。高校生に近い30～40歳台の積極的な参画を母校から期待されています。

### 4. 持続的成長に向けてのアイデア

1) 活躍する同窓生を知ってもらう仕組み  
①ホームページやSNSなどの活用促進：同窓生のメディア登場、著名人だけでなく市井での活躍など、活きた情報をタイムリーに提供。個人情報保護に留意し、掲載・運用ルール設定は必要。

②会報での若手中堅活動コーナー：若手中堅の投稿や、若手中堅の活発な同期会など好事例紹介

③著名な同窓生紹介の企画：より現役・中堅世代の同窓生を知りたいとの声が母校・生徒からも同窓会に寄せられ、事務局としても学年幹事会の協力をえて、紹介する仕組みを準備中。

2) 魅力拡大のための新たな試み

①活動多様化：30人規模の活動や、100人規模の会（演奏・お楽しみ会など）の複数開催など

②世代間交流：先輩に学ぶ、後輩に伝えるなど、世代を超えた交流機会を設定

③同好会など継続的交流：趣味や啓発など、リカレント（学び直し）機会の提供

④母校とのつながり：ホームカミングディとして同期会で母校を訪ね、生徒と交流する機会

⑤本部と東京会報は在校生にも届けており、会報誌上での交流・応援

3) 登録会員の増加に向けて

①同期会単位での登録促進：現況で伝えた94回生以降も、同期で把握はしており、同窓会の魅力を伝え、同期会単位での登録を学年幹事中心に促進。

②節目での登録促進：サブ幹事学年（25、35、45、50歳になる年度）に、総括当日運営の協力をお願いしており、この機会に、同期会の結束を高め、サブ幹事全体のタテの交流も促進も検討。

③女子学年幹事選出：86回生以降（女子3割前後以上）は女子幹事選出を促進

（現在は10学年）。

④新歓：浪人生の翌年参加の呼びかけ。

4) 財源安定化・運営効率化

コスト削減では、①総会収支均衡、②会議コスト削減、③会報コスト（製作、発送）削減を進めます。収入拡大では、①会員登録増加による年会費・賛助金の増

加、②納入率向上運動、③総会・行事など納入機会拡大を図ります。運営効率化に、各種運営要領（マニュアル）作成も準備中。他校好事例も共有していきます。東京清陵会の活性化に向けて、斬新な考え方、アイデアをお待ちしています。

（事務局長 北原譲 82回生）

追悼

## たすく 小平祐氏を悼む 寺島敏郎(50回生)

小平祐さんは、昨年11月26日敗血症にて永眠された。

小平さん（42回生・日本農業社長）は、1987年「第7代清陵高校同窓会東京支部長」に就任され、1995年、初代「東京清陵会長」として退任された。

その間、数々の新機軸を導入して実現され、まさに現在の「東京清陵会」の礎を築かれたのであった。

小平さんの右腕として活躍した林尚孝事務局長（52・55回生）の存在に触れない訳にはいかない。林事務局長の実現には、不肖寺島が一役買った。増澤譲太郎第6代東京支部長（41回生、気象庁長官）と保延醇一事務局長（41回生、岩波書店）が退任されることとなり、小平さんが後任の支部長を引き受けられた。

小平さんが東京支部長に着任されたことから、事務局長について相談された寺島が林尚孝さんを推薦した。それは牛山正雄先生追悼文集『理想の花の咲かむまで』編集委員会での活躍ぶりを知っていたからである。

諸先輩に呼び出された林さんは驚いた。茨城大学の現役の助教授であり、ましてや3800名を超える往復葉書の宛名書きなどできるはずがないと固辞した。強引な説得に根負けした林さんは、事務の合理化、すなわち会員データベースの作成、パソコンとプリンターの購入を前提条件として帰っていった。当時パソコンの機能を認識する人は少なく、反対意見もあったが、小平さんはこれらの条件を承認したことで、小平支部長、林事務局長という名コンビが誕生した。

小平さんの最大の功績は、「東京清陵会」会員データベースを作成したことである。

林（根橋）秀幸さん（73回生、日経BP社）の尽力により、清陵同窓生全体のデータベースが早くも1989年に構築された。これは東京清陵会のみならず、同窓会本部データベースの基礎となっている。

パソコンとプリンターも威力を発揮し、宛名の手書きから解放された。発送作業も、茨城大学の学生アルバイトにより滞りなく行

われた。

翌1990年B5判6頁の『東京支部だより』が発行された。これに伴い会員への連絡も往復葉書から、封書による連絡に変わった。これから支部会員の動静がより正確に把握された。

1992年には、『1992年版支部名簿』が刊行された。データベースからの資料に困ったので、業種別という珍しい索引が可能となった。

この年、終身会員制が制定された。終身年会費1万円の利子が年会費500円を上回るよい時代であった。

小平さんは、気配りのよい方で、三役会議を会員制の「日本橋倶楽部」で、すべてを自費で開き、和室の座敷でご馳走に与りながら和やかに歓談することもあった。

ある時、「東京支部は同窓会支部の中で最大であり、独自性のある活動を考えたらどうか？ については名称を変えて『諏訪清陵高校同窓会東京支部』から『東京清陵会』としたい」と提案された。

「東京清陵会」という名称から、同窓会から独立するつもりか、と異議が出されたが、あくまで「東京支部」であり、独立の意図はないと説明された。そして1993年に改名されて、以後、現在に至っている。

創立100周年を記念して、林事務局長の発案で、東京清陵会がビデオ『清水ヶ丘にうたう』を制作した。監督は片野満さん（56回生、岩波映画）、プリントを矢島寛夫さん（66回生、アロービジョン）が担当された。このビデオは、同窓会入会を記念して、現在でも新入生に贈呈されている。

1995年、16年間総会会場となっていた日本青年館「東洋軒」ホールから、「虎ノ門パストラル」に会場が変更された。活動が活発になったことで参加者が増加し、会場が狭くなったのだ。参加者数317名は、史上最高の記録であり、小平会長の掉尾を飾る総会となった。

このほか女性会員の増加に備えて、女子会の開催など、キメの細かい施策も実行された。



小平さんは、会長を退任されてからも同窓会の会合や諏訪で開かれる本部の総会にも必ず出席された。

今思えば、小平祐さんは、「東京清陵会」の名のもとに、東京支部の大改革を目指しておられたのではないだろうか。その狙いは見事に成功し、女性会員の総会参加、若手会員の結集、ユニークな機関紙『東京清陵会だより』などに実を結んでいる。

小平さん亡きあと、その偉業をしみじみと思い、その御霊に深甚なる感謝の念を捧げたい。

付記

小平さんが亡くなられて、その追悼文を書くのは、次の会長を引き継いだ寺島君は逃げられないところだね、という声が聞こえるなか、私はなるほどな、と思いつつもすっかり考え込んでしまった。

偉大な足跡を残された先輩会長の思い出は山ほどあるけれど、いずれもうろ覚えで、特にその前後関係、年次や日付などまったく確かなものではない。

そんな私が書くより、小平会長とはこの上ない名コンビだった事務局長の林尚孝さんは、その綿密な性格からか、常に携帯情報端末を携行し、細かくメモをとっていたから、彼に書いてもらう方が……などと思ったが、ここは逃げを打つべきではないと思い返し、私、寺島が起筆する代わりに、林さんに目を通してもらい、大幅に手を入れてもらうことを条件に、ともかくも叩き台となるようなものを書いてみた。林さんの目にかかると案の定、記憶違いが多く、林さんに大胆に補筆訂正を願うことで、どうやら小平祐会長の追悼文らしきものを書き上げることができた。改めて林尚孝さんに御礼を申し上げる。

2018年  
総会・懇親会  
企画

# 同窓会を 「再考」する

これまで「55歳時」の学年が「当番幹事」となり、企画・運営してきた「東京清陵会」の総会・懇親会であるが、今年度は当番幹事に代わり、事務局主体の企画運営となる。本来の当番幹事学年である東京清陵会の85回生から「本部での活動の主体とはなるものの、東京清陵会（支部）としての諸活動の必要性に疑問がある」の問題提起があったためである。事務局会議・常任幹事会・学年幹事会で、いろいろ議論し交渉を重ね、今年度の懇親会では「同窓会を『再考』する」をテーマに大いに討論したいと思います。

## 東京清陵会に望むもの 未来を大討論!

上記のような理由により、今年度の懇親会は事務局を中心に企画・運営することとなった（ただ、「55歳当番幹事制」は今後も維持するので、これは今年だけの特別な処置で、来年は86回生が当番学年幹事としてやってくれることになっている）。

そんななか、事務局としては「危機をチャンスに」という思いで、今年の懇親会のテーマを「同窓会を『再考』する」とした。東京清陵会のメンバーにとって「同窓会とは何か?」という原点に立ち戻り、同窓会の存在意義を「再考」する機会にしようという思いである。

以下のアンケート結果をご覧ください。これはこの問題が発覚した直後に、この機会に同窓会のあるべき姿・当番幹事制度について、学年幹事会（2017・7・22開催）で実施したものである。

金子哲哉（89回生）集計

### ■回答数 35人

(59回以前…5人、60~69回…9人、70~79回…4人、80~89回生…9人、90~99回生…2人、100回以降…3人、回数不明…3人)

一部紹介すると、まず「東京清陵会に期待すること」という問いについては、同期との交流と同じ程度に、先輩や近い世代との交流を期待しているようであった。また、「今後の東京清陵会の将来は?」という問いについては、現状の規模感、内容を維持するのが妥当と考える意見が

8割近くであった。また、拡充を期待する点としては、多くの学年幹事が世代を超えた交流を期待しており、母校への貢献や後輩への支援活動を望む意見も多くみられた。

一方「当番幹事になること」については、中心として幹事を行うことは肯定しているものの、懇親会の運営、会報の編集ともに、少なからず負担を感じているという実態は見取れた。当番幹事制度を維持していくとしても、負担感を軽減するような施策を考える必要があると思われる。

### Q1：東京清陵会の役割として

#### 期待することは?

同期との交流 = 16、近い世代との交流 = 17、先輩方との交流 = 17、後輩との交流 = 13、研鑽 = 6、母校・生徒・郷里を支援 = 13 (37%)

### Q2：当番幹事制度について

●関与度 中心として = 14 (61%)、当日など普通に = 7 (30%)

●意欲 意欲的に = 12 = (55%)、意欲と依頼が半々 = 7 (32%)

●感想 同期の再会結束 = 14 (48%)、清陵を再認識 = 9 (31%)

●総会懇親会運営の負担感 かなり大 = 4、それなりに大 = 8 (38%)、応分 = 9 (43%)

●会報作成の負担感

かなり大 = 2、それなりに大 = 14 (64%)、応分 = 5

### Q3：今後の東京清陵会の将来は?

●規模…現状程度の活動が妥当 = 20 (77%)、さらに拡大/本部を牽引 = 5、支

部とし縮小均衡 = 1

### ●拡充すべき点は? (3回答)

若手中堅の参加拡大により世代を超えた親睦 = 29 (83%)、母校・生徒・郷里を応援 = 16 (46%)、後輩・若者への支援 = 13 (37%)、同期会の拡充 = 10、研鑽機会拡大 = 8、女子参加拡大 = 5

これらを踏まえた、今年度の懇親会の企画の主な見どころは以下の通りである。

### 見どころ1

#### 「談論会形式でみんなで考える」

まず初めに、東京清陵会のこれまでの様々な活動・取組みを紹介。それをもとに、パネリストとともに、参加者全員に「今後の東京清陵会のありかた」を自由討論する時間を設ける。討論の形式は、懐かしの「談論会」形式。皆さんの「同窓会に対する熱い思い」「同窓会の役割とは」「同窓会への期待」「同窓会の将来」などについて、存分に語ってもらいたい。

### 見どころ2

#### 「学年を超えたテーブル席」

アンケートからも見られるように、同窓会参加の主な目的は「同期との交流」とともに「様々な世代との交流」である。ということで、本年度の席順は、学年の年次順の割り振りではなく、例えば101回生と83回生と72回生が同席というように、様々な年代を混ぜた座席の設定を予定している。引き続き「同窓会」に関する議論を大いに交わしてもよし、他業種間の話をするもよし、本当の意味での各世代の交流を図っていただきたい。

## 見どころ3

## 「超(?)豪華 お楽しみ大抽選会実施」

多くの土産話を持ち帰ることのできる同窓会であるが、本当の「お土産」を持ち帰っていただきたいということで、今年度は「大抽選会」を実施する。

東京清陵会からも「豪華(?)賞品」を提供する予定ではあるが、たくさんの企業人を輩出している東京清陵会であるので、同窓生の皆様より賞品をご提供いただいてさらに「豪華抽選会」とする予定。どのような賞品構成になるか、乞うご期待!(ご提供賞品のエントリーも合わせて受け付けますので、下記をご覧ください)

ぜひ多くの皆様にご参加いただき、それぞれにとっての同窓会とは何か? 同窓会へのかかわり方などを考えていただく機会にいただければ幸いです。

## 東京清陵会

## 総会・懇親会プログラム内容(予定)

10月7日(日) 12時~

場所 アルカディア市ヶ谷

1. 総会 12:00~
2. 開会式(開会・挨拶・乾杯等)  
12:45~
3. 東京清陵会の取り組み報告  
13:10~
4. 東京清陵談論会  
13:30~ パネル提言  
「東京清陵会の明日を考える」  
自由討論
5. 懇親会(食事&お楽しみ大抽選会)  
14:10~
6. 閉会式(閉会挨拶、校歌等)  
16:00~16:30

岡本徹(83回生)

## ★協賛品の募集★

懇親会の最後に「お楽しみ大抽選会」を企画しています。「東京清陵会」からも「特賞」として、賞品を提供予定ですが、皆様からも、どんなものでも結構ですので、なにか「物品」を協賛していただきたく思います。

協賛いただきました方は、来年度の会報に会社名お名前を掲載致します!! ぜひともご協力をお願い致します。

エントリーの方法は、事務局アドレス(tokyoseiryokai2017@gmail.com)に「商品内容・提供回数・会社名・提供者名(会社名でも個人名でも)・紹介用写真(あれば)」をご連絡下さい。(内容を検討してご返信させていただきます)

## 東京清陵会の明日を考える

日本で、世界で活躍する同窓生4名に自分のキャリアとともに同窓会への関わりや思いを語ってもらうとともに、これからの(明日の)同窓会のあり方への提言をしていただきます。

パネリスト  
紹介

金子道子さん  
(59回生)

## 略歴

59回生女子生徒2名のうちの1人。東京大学医学部衛生看護学科5期生。大阪大学・東京女子医大・筑波大学等の教育研究職を歴任し、近年は山梨県立看護大学・呉大学・群馬医療福祉大学等の看護系四年制大学設立に専従。現在も健康科学大学顧問を務める。  
著書:ナイチンゲール著作集3巻(訳 毎日翻訳文化賞受賞)、看護学体系全13巻(監著)、看護論と看護過程の展開、ヘンダーソン看護論と看護実践への応用、他多数。

私が清陵に入った頃は、男女肩を並べて学び、社会で活躍する時代ではありませんでしたが、まだ女子の大学進学率が10%にも満たない時代に、大学で生涯の仕事につながる勉強ができたこと、現在にいたるまで途切れることなく仕事し、同窓生から人生の伴侶を得て家庭も築くことができました。全て清陵の3年間がベースにあると思っています。そんな思いを皆様と分かち合いたいです。

伊藤洋一さん  
(71回生)

## 略歴

諏訪市中洲出身。祖父、父と三代、清陵。清陵では社会部に所属。安保などの社会問題に関心をもち、清陵祭で展示を行う他、深志に出向き、意見交換会も。早稲田大学政経学部を卒業、時事通信社を経て、住友信託銀行へ。現在は、三井住友トラスト基礎研究所研究主幹。著書は「本当はすごい日本の産業力」他多数。テレビ局のコメンテーターも務める。

世の中の最も新しいものを追うことが、私の仕事だ。新しいものを追う中で、様々な変化に出会うことが非常に面白い。変化を見つめる、変化を体験する。変化の中で時間を過ごす。変化を楽しみつつも、30~40歳代の社会人の諸君は、目の前にある仕事に取り組んで欲しい。自分の転職は信託銀行への転職。清陵的なもの、グローバルなダイナミズム、転職の決断などコメントしてみたい。

春山明哲さん  
(68回生)

## 略歴

上諏訪中学卒、東京大学工学部卒、同大学院修士、国立国会図書館入館、調査及び立法考査局専門調査員で退職  
早稲田大学台湾研究所客員上級研究員、一橋大学大学院非常勤講師等を歴任  
現在 早稲田大学台湾研究所招聘研究員、日本台湾学会名誉理事長  
主著 『近代日本と台湾』(藤原書店)  
(第一校歌と寒水・伊藤長七についてのスペシャリスト)

## 自由な談論を

2015年我々68回生は卒業50周年を記念して諏訪に集まった。諏訪、東京はもとより全国から50余名が参加したこの会で確認したことは、同窓会とは、本部、支部、学年、地方会、クラス、サークルなど多様な単位で活動する「自由で重層的なネットワーク」であるということだ。清水が丘の自治の精神とはなにか、おおいに「談論」したいものである

関俊一郎さん  
(89回生)

## 略歴

1992年 カリフォルニア大学バークレイ校経済学部卒業  
1995年 東京都世田谷区にファンゴー三宿店(サンドイッチカフェ)を開店、創業  
2002年 株式会社ファンゴー設立 代表取締役 就任  
現在までに6業態14店舗の飲食店を展開

89回生の関俊一郎と申します。高校卒業と同時に諏訪の地を離れてから早くも32年が経ちました。今日まで駆け足で過ごしてきたと感じながら、今回ご縁があって同窓会のパネリストに任命いただいたことをきっかけに、おそらく初めて、自分のルーツに諏訪清陵高校生活の3年間が大きく関わっていることを実感しています。アメリカで6年、東京で26年を過ごし、やっと「故郷」を感じる事ができたのは、同窓会あってのことだと思います。今後も同窓会が同窓生に意義のあるものであることを心より祈っております。



特別インタビュー

# Special Interview

## 飯田譲治さん(80回生)

映画監督、脚本、小説と多岐にわたり活躍されている飯田譲治さん。飯田さんが、映画監督を目指したのは、諏訪清陵高校在学中だったという。自身の原作・脚本・監督による『アイングランマ2』（NHKBSプレミアム、6月3日～放映）編集作業の合間に、映画監督という夢を実現させた道のり、そして、今後の映像世界への熱い想いまで、さまざまな話をうかがうことができた。

# 清陵時代に目指した映画監督。 叶えた夢のその先を見据えて、 世界に通用する映像制作へ!

### 元特殊捜査官だった二人のおばあちゃんを主演に!

——『アイングランマ』は、外交諜報活動を秘密裏に担ってきた元特殊捜査官が主人公という斬新な設定なのに、歳を重ねた今の生活には現実感もあって、すごく惹き込まれました。

「ありがとうございます。今、シーズン2



Profile

飯田譲治さん

いよいよ1959年諏訪市生まれ。明治大学中退。大学時代から自主映画を製作し、1986年「キクロプス」で監督デビュー。1989年「バトルヒーター」（脚本・監督）以降、映画、テレビ等で多数の作品を手掛ける。著作（梓河人との共著）には「アナザヘヴン」「アナン」「盗作」など。

の編集を一生懸命やっているんで、そう言ってもらえるとうれしいです」

——大竹しのぶさんと室井滋さんのダブル主演ですね。二人の掛け合いが楽しくて、めったに見られないアクションシーンも魅力的でした。どのような経緯で撮られたんですか？

「室井滋とは20歳の時から知り合いで、30年以上の付き合いなんです。早稲田大学のシネマ研究会で自主映画によく出ていた女優で、ほくは明治大学で監督やりたいと言って実験映画を作ってる、ただのチンピラだった。室井滋、上手じゃないですか。でも、いい歳になってきて、主演ドラマの企画は難しくなってきた。それなら、ほくが考えようかなと」

——室井さん主演の話ということで？

「はい。それで、おばあちゃんが主演の

話をと思って、いろんなところに話をしていたんです。そうしたら、おばあちゃんの話だったら大竹しのぶもいいんじゃないかという話が数人から出て。しのぶさんとも顔見知りだったので、それだったら大竹しのぶと室井滋の二人が特殊捜査官だったというパディものが面白いんじゃないかと考え始めたんです。シナリオを書いてしのぶさんに見せたら、面白いからやりたいて言ってくれて。NHKに企画を提出したら、あの二人が主演だったらぜひという感じで決まりました」

——セカンドシーズンはどのように？

「評判が良かったと言われていたので、次は映画でやりたいと思って脚本を書いていたんですが、セカンドシーズンの話を持ちかけられて、連続ドラマでやるこ

とになりました。セカンドシーズン、パワーアップしてますよ」

——すごく楽しみです。

「20歳の頃から知り合いの室井滋と、中学生くらいからテレビで観ていた大竹しのぶ、その二人と仕事してるのも不思議というか、面白いなと思いますね。今、日本映画が衰退してしまっていて、特に50歳以上の世代が観たいと思う役者さんがいなくなっている。大竹しのぶと室井滋の二人だったらそういう存在になれるんじゃないかと思っています。『アイアングランマ』を企画した意図はそこらへんにもあるんです」

## 映画監督になろうと決めた清陵高校時代

——どんな高校時代を過ごされていたのが気になります。

「諏訪中学校出身で、家は高校から5分くらいのところ。どんっていっても、部活は柔道部に入りましたが、まあ、遊んでただけですよ。当時、柔道は辰野出身の連中が強くて、強い奴が2人いたんです。柔道は5人のうち3人勝てばいいんで、結構、勝ち上がれる。県大会まで行ってましたね。でも、高校生の頃から映画監督になりたいと思ったんで、映画はよく観てました」

——何かきっかけがあったんですか？

「小説を書いたり、マンガを描いたりしてたけれど、映画監督がいちばん楽しそうだなと思って。当時は、アメリカの映



「アイアングランマ2」にダブル主演の室井滋さん、大竹しのぶさんとともに

画が人気があったんですが、監督になるのなら日本の映画も観ておこうと思って、よく観ていました。シネマレイクや花松館で。ぼくにとってはショーケンがヒーローだったんで、大好きだったのは神代辰巳監督。思い返すと、花松館で『アフリカの光』を観て、映画監督になろうと決めたという気がします」

——その頃は映画監督について、具体的にイメージしていたんですか？ どんな監督になりたいとか、どんな映画を撮りたいとか。

「田舎者だったので、どうやったら映画監督になれるかわからなくて、ただ映画を作りたいと思ってただけで。親戚に博報堂に勤めている人がいて、とにかく東京に行って大学を出て博報堂とかに入れば、映画監督になれるんじゃないかと思った。そんなこと全然なかったんだけどね。でも、確か受験の年くらいに、大林宣彦さんがCMディレクターから監督になったりしているんです。そんなことを漠然と考えて、とりあえず、東京に出ないとダメだなと思って大学に入りました」

——その頃の恋バナとかないんですか？

「全然ないですよ、奥手だったんで。東京に出て、化粧している女の子を見た時、緊張して話もできませんでした。高校の頃は、ほとんどひとりで映画を観に行っていましたね。花松館に行って2本立てを観てたら、花松館のおばさんが掃除を始めて、気がついたらぼくひとりだけで、

怖くなって出てきた時とかあったなあ」

## 清陵に当たり前にあった自由と理想的な関係

——清陵で学んだことで、今に通じていることはありますか？

「進学校で、みんな地頭がいいじゃないですか。それで、先生も生徒を放し飼いにしているみたいな関係は理想的だったと

## 映画・ドラマ作品(代表作)

### 映画

バトルヒーター(1989年)  
NIGHT HEAD 劇場版(1994年)  
らせん(1998年)  
アナザヘヴン(2000年)  
Jam Films「コールドスリープ」(2002年)  
ドラゴンヘッド(2003年)  
黒帯 KURO-OBI(2007年)

### テレビ

奇妙な出来事(1989年)  
世にも奇妙な物語  
NIGHT HEAD(1992年~1993年)  
東京BABYLON(1993年)  
幕末高校生(1994年)  
沙粧妙子 最後の事件(1995年)  
リング(1995年)  
ギフト(1997年)  
幻想ミッドナイト(1997年)  
アナザヘヴン~eclipse~(2000年)  
あしたの、喜多善男(2008年)  
ゴッドハンド輝(2009年)  
CONTROL~犯罪心理捜査~(2011年)  
Strangers 6(2012年)  
VISION-殺しが見える女-(2012年)  
星新一ミステリーSP「きまぐれロボット」(2014年)  
アイアングランマ(2015年)  
アイアングランマ シーズン2(2018年)



思いますよ。お互いに信頼関係があったというか、そこまでバカはしないと信じて、自由にさせてくれていた。そういう関係は、すごく健康的でいいよね。東京に出て、気づいたこともありましたね」

——**どんなところですか？**

「高校の頃は、楽だったんですよ。みんな、グーって言えばパーって反応するみたいな、反応が早いっていうか、正直、みんなのレベルが一緒くらいだったから楽だったんだと思います。それで、まだ未熟だったので、社会ってそういうもんだったって勝手に思っていたけど、大学をやめて映像の世界に入ったら、もう、いろんなレベルの人がいて、共通概念みたいなものが生まれにくかったり、話がまったく通じない人なんかいて——。ほんとに社会ってのは多種多様なんだってことを20歳過ぎてやっと知ったんだなって思った。高校生の時って、いい環境だったんだろうなと思いますね」

## 自ら切り開いていった 映画監督への道

——**大学に入ってから、映画を撮るようになったんですね。**

「ちょうど大学に入った頃、8ミリ映画ブームで、仲間と一緒に撮ってましたね」

——**どんな映画だったんですか？**

「青春映画も1回撮ったんですけど、ほとんどが、つまらない実験映画みたいなものですよ。でも、学生の頃にそういうことを済ませてたんで、その後、エンターテインメントを作りたいとはっきり思うようになった。今、新人作家が、ぼくが8ミリで撮っていたようなものを題材にしていたりするけど、たいがいにおいて



『アイングランマ2』撮影の合間に、出演者の新山千春さん、EXILE MATSUさんとともに

退屈なんで、そういうのは、アマチュア時代に済ませておいて良かったと思えますね」

——**その後、どんなふうに映画監督に？**

「8ミリで映画撮ったりしているうちに、大学に行くのが無意味な気がして、大学を辞めて助監督をやるようになりました」

——**自分で切り開いていった感じですか？**

「振り返ると、危ない橋を渡った気もしますけど、当時は別に、何とも思わずにやっていました。でも、独学で、すごく脚本の勉強はしてましたね」

——**実質的にプロデビューしたのは？**

「27歳の時、今のVシネマの走りみたいなものを撮りました。人づてに1度だけ、会社員になったことがあって、その会社がニッカツビデオフィルムズという会社と仕事をしていました。ちょうど、街にレンタルビデオ屋さんができ始めた頃ですね。日活ロマンポルノが過去のポルノとかをビデオで出し始めたんですが、日活という看板があるから、みんなエッチなものしか出せない会社だと思っていた。当時、つき合いのあった日活の人から、エロ以外もあると示せるものを発売したいという話が出ていたんです。そこで、ずっとあたためてきた企画があったんで、やらせてくれて言って、ホラーストーリーみたいなのを作りました。それが監督デビューなんで、まあ、ズルしたって言えばズルしたし、イレギュラーに監督になったんですよ」

——**その後は順調に映画を撮れるようになったんですか？**

「結局、その映画は大赤字で会社に迷惑かけてしまいましたね。その後は、キョンシーもののテレビシリーズの総合演出をやらせてもらって。それで、その後、よくしたもんで、光GENJIが出演する正月映画の脚本を書いてくれて言われて。当時、大ヒットしたんですけど、世間はあまり騒がなかったな」

——**ご自身が企画した映画は？**

「30歳の時に、自分の企画を映画にできることになって、作ったのが『バトルヒーター』ですが、それも大コケして、もう二度と映画撮れないかなという感じでした。けれども、たまたま、俳優の柄本明



さんの事務所の社長が『バトルヒーター』を面白いと言ってくれて、テレビ局の制作会社に紹介してくれたんです。そこで何本か撮っているうちに、『NIGHT HEAD』をやれることになって、それがヒットして、映画にもなったので、そこから映画監督として認められる感じになったのかな」

——**特に思い入れの深い作品はありますか？**

「もちろん、どの作品にもありますよ。でも、『NIGHT HEAD』、『アナザヘヴン』を撮ったことで、ステップが上がったのかなと思います」

## 人間の中の矛盾した感覚に 迫った「アナザヘヴン」

——**ホラー系は苦手なんですが、どんどん惹き込まれていく展開でした。**

「もう17年前の映画なんだけれど、今でも、Netflixとかでアップされると、結構、いろんな人が観てくれていますね」

——**残虐な連続殺人事件の奥にある「ナニカ」という存在、その発想が素晴らしいなと思いました。どういうところから発想されたんですか？**

「当時、まだ若かったけど、最初に思ったのは、みんな、嫌だ嫌だと言いながら好きなものっていっぱいあるじゃないですか。人殺しなんて嫌だと言いながら、人殺しの話があると見たがる。火曜サスペンス劇場なんて、もう何十年も観ているわけでしょ。それを観て楽しんでいる



人たちが『人殺しはいけません、人殺しはいけません』って言う。あと、戦争は止めようっていうわりには、みんな戦争映画が好きだし、何でだろうって考え始めたのがきっかけかな」

——怖いモノ見たさみたいところはありますね。

「結局、みんな刺激物が好きで、それを観て、今、そういう刺激が身近にないことが幸せみたいなシステムができてる。本当にこういうものを望んでいないとしたら、人間って、どんな生き方をするんだろうとか。天国に行きたいと言うけれど、蓮の上で坐禅を組んでいるだけの時間を、果たして幸せって思うのかと。そんなことを考えているうちに、今、この世界が理想的で、残酷なことが適度に起きていることをみんなが望んでいるから、いつまで経っても、そういうものがなくならないんだろうって、そんな感覚を描いてみたくなった」

——矛盾した感覚ですか？

「世の中ってそういう矛盾がいっぱいあって、キリスト教を信じている人に、『じゃあ、隣の人がいきなり生き還るってことあるよな?』と言うと、『そんなことないでしょ』と言う。キリストが転生したのは信じるのに、今、隣でそれが起きたら信じない。『アナザヘヴン』には、そういう人間のふざけた矛盾とか感覚がいっぱい入ってるんです」

## 日本の貧しい映像業界を変えていく作品を!

——日本の映画やテレビの世界は、どう変わってきていますか？

「映像業界は、日本だけ特別ダメになってきていますね、映画もテレビも。お金をかけて良いモノを作ろうという意識が薄くなっているし、集客もできない、だから予算もかけられない、そういう悪い循環になっていると思います。東宝とかでは2、3億円かけて作ってるけど、メジャーの外では1本2000万円が上限になっていたりして、ほんとうに悲惨な状況です。アジアの中でも、日本ほど低予算で作っているところはないですよ。だから、優秀な人材はみんな、マーケティング的にも上手くいっているアニメ業界

# 映画や海外エンターテインメントドラマで、より豊かな映像表現へ!

にばかり行ってるんです」

——アニメ業界は勢いがありますね。

「今、アニメの脚本を書いているんだけど、企画会議をやると、ホントにみんな頭がいい。アニメ業界って、ワールドマーケットじゃないですか、出来が良くないと売れないんですよ。だから、どうなるか出来が良くなるかとみんなで考えている。いいモノ作るために、優秀なスタッフを集めたいという発想があるから、アニメ業界は今、いちばん健康的なんです」

——映像業界を変えるには、どうしていったら良いのでしょうか。

「優秀な人材は、結局、お金になるところにしか集まってこない。だから、実写の映像業界に行っても、これだけ儲かるよという流れを作らないといけないと思いますね」

——ご自身の今後については、どんなテーマや展望をお持ちですか？

「ゆくゆくは、『アナン』という自分の小説を映像化したい。これは映画でやりたいと思っています。あとは、海外でオンエアできるドラマを作りたいと思ってますね。ヨーロッパとかアメリカで、1話を2~3億で作るくらいのバジェットでやりたいと思っています。日本の映像業界はもう、あまりにも貧し過ぎるので、なんとかして変えていきたいと思っています」

——地元を舞台にした映画を撮られる予定はないですか？

「『アイアングランマ2』を諏訪で撮影できないかと思ったんですが、結局、静岡の方が東京から近いこともあって、静岡のコミッションと一緒にやることになったんです。でも、1、2週間、泊まって撮影するような作品なら、諏訪でもできるかなと思います。諏訪出身の役者とか、結構いるんですよ。羽場裕一さん（伊那

市）とか、仮面ライダーに出演していた渋谷譲二（諏訪市）、高山猛久（諏訪市）とか。今回『アイアングランマ2』に出ている宮坂灯里（諏訪市）もそうです。そういう役者集めて、諏訪で面白いモノが撮れたらと思うんだけど、エブソンとかが、お金を出してくれればね」

——オリンピックのメダリストに4000万出してくれる日本電算サンキョーとか？

「諏訪の名士の方々が、協力してくれたいですね。諏訪のフィルムコミッションなら、東京では規制されていることができる部分もあるじゃないですか。企画さえしっかりすれば、いくらでもスターとか連れて行けるんで、面白いものができるかも知れない」

——実現するのを楽しみにしています。本日はどうもありがとうございました。



特別インタビュー

飯田譲治さん

Special Interview

特別  
寄稿

# 成り行きまかせの 我が演劇・役者稼業遍歴始末

## 内山森彦(58回生)

### ●そもそも事の起こりは婆様であった。

それは戦前であったのか戦後であったのか記憶があいまいだが、上諏訪駅から国道を左へ行き大踏切を渡った左側の空地に、時折り急ごしらえの小屋が建てられて、1週間ほど旅役者の芝居が掛かり婆様に連れられて観に行った。人情物語みたいな芝居が演じられ、いいところで、『本日はここまで、この続きはまた明日』で、チョンチョンチョン。

というわけで毎日観に来なければならぬい仕掛けになっていた。

これが『芝居』というものを観た最初の経験だった。後年、自分が役者になるとは思いもなかったが、子供心にも何か面白かったなあ。

### ●中学3年、清陵祭で『演劇』を観た。

中学3年の時、清陵祭に行き、講堂で、たまたま演劇部が上演した武者小路実篤の『その妹』を観た。それは子供の時に観た旅芝居とは全く違うものに思えて何となく感動したのであった。ただこの時もそれは遠い世界のことと思っていた。

### ●清陵入学、先輩・篠遠允彦氏と出会う。

僕らのクラスはボロボロ校舎から渡り廊下で繋がった「記念館」の1階。担任はゼツちゃんこと宮下琢朗先生。美術家として、そして春風駘蕩のごとき風格の宮下先生からは『自在に歩む』ということをそれ

となく教えられた。

記念館の2階には新聞部、文研、演劇部などの部室があった。演劇部に3年生の篠遠允彦さんがいて、どんなキッカケだったか、入学間もない頃に声をかけられ、その年の清陵祭でゴリキーの『どん底』にほんのひと役で出演することになった。そのまま卒業まで演劇部に在籍したが、これが役者稼業のほんの始まりの一步だったのかもしれない。篠遠允彦さんには、先年亡くなるまで僕を様々に見守っていただいた。

### ●法政大学へ、劇研に拉致されるの事。

法政大学へ入学。1年生は東横線武蔵小杉の木月校舎。1年生だけの解放区のようなのびのびした空気が横溢していた。「演劇」はもう高校で卒業したつもの僕に声を掛けてきた青年がいた。どこで調べたのか、「内山君は高校で演劇をやっていたそうですね。僕は演劇研究会の演出担当ですが、君、手伝ってください」と強引に「拉致」されてしまった。2年生になって市ヶ谷の本校に進むと、もう成り行きまかせで学生演劇にどっぷり浸かる体たらくであった。

### ●日本放送協会 (NHK) 俳優養成所入所。

大学4年9月就職試験。何となく先ず朝日新聞を受けた。ところが試験場の中央大学のキャンパスは受験生で溢れ、こりゃあダメだと…その通りダメだったね。と、そこへ劇研の後輩が来て、NHK俳優養成所の募集があり受けたいが心細いので一緒に受けて欲しいと言うので、まあいいかと筆記試験に行ったが物凄い人。こりゃあダメだぜと言いつつ内幸町のNHKへ発表を見に行ったが、そこに彼の番号は無く僕の番号があった。元々やる気の無い僕は「今夜は残念会だね」と言っていると後ろで『あ、あった!!!』と黄色い声。振り向くと凄美人！ ウームそれじゃあ二次試験も受けるかと、はなはだ不純な動機で、実技の二次三次面

ゴリキー作  
ベリャコービッチ演  
出『どん底』巡礼ル  
カ(劇団東演公演)



チェーホフ作『桜の園』 木山事務公演  
兄ガーエフ 妹ラネーフスカヤ(旺なつき)

接と身体検査も通り受かってしまった。しかし、始業式に行くと、あの凄美人はいなかったのだ!

●NHK専属から劇団三十人会創立へ。本気で俳優になるつもりはなかったが、ひと癖ありそうな男女50人。授業料は無し！ これ面白いかもとそのまま1年半の養成所生活を過ごし、NHKの専属になりテレビ・ラジオに出され、今日は準主役クラス、次はチョイ役と、毎日何でもやらされて、このままでは流されてしまうぞ、舞台の芝居もしようとして劇団を創立した。養成所以来のメンバー34人。34を四捨五入して『劇団三十人会』。やがて、劇作家・演出家・スタッフも加わり全国ツアーも始まり、若い研究生も入って来て100人の大所帯になり都心に立派な稽古場も建てた。しかし、70年安保闘争前後の時代の流れの中で劇団は混乱をきたしていった。とうとう面倒くさくなって劇団を解散してしまった。

### ●一匹狼の役者渡世と相成った。

以来、紆余曲折、山あり谷あり崖もあり長い歳月をフリーの演劇人として生きてきた。今年82歳。沢山の人達に支えられてもう少しもう少しと映像の仕事しながら現役で演劇活動を続けている。明日の朝目覚めたなら生きていたろう。



### ●うちやまもりひこ(本名・内山善一)

昭和11年諏訪市に生まれる。俳優。世田谷在住。映画・テレビ等映像の仕事と共に演劇活動を続けている。モスクワ・ロンドン・パリ等海外公演も多い。毎年8月の原爆忌に『父と暮せば』を上演している。今年は10月12日～21日に不条理劇の巨匠・別役実の新作に主演する(下北沢小劇場B1)。

# 東京清陵会による母校生徒へのサポート本格展開中

2017年度は、5月の高校学習合宿、「進路講演会」(昨年度会報掲載済)、8月の附属中学「地域開放講座」並びに11月の高校「キャリア教育」に講師派遣、さらに11月の附属中学研修旅行では、「職場見学」を受入れました。この活動は2018年度も継続支援していく予定です。講師、職場は40人ほど登録頂き、生徒要望に応えられる体制としました。

## 附属中学「地域開放講座」に講師派遣

附属中学校では、毎年8月末に「土曜開放講座」として一般にも開放しながら、各方面から清陵出身の先輩方を中心にした講師を招き、考え方や生き方について学んでいます。毎年、医療→地域→グローバル、というテーマを変えながら取り組んでいる本活動、3回目となる本年度は、グローバルに活躍される先輩方を長野県在住の方だけでなく、東京清陵会にご協力をいただきながら、東京在住の先輩方も招聘することができました。

幅広く、それぞれの生きざまを反映したお話は生徒の興味を強く引き、その生徒も吸い込まれるような勢いで傾聴していました。

## 講師より

①仕事内容：日立のITシステム関連の情報を、海外のグループ会社と連携してグローバルに発信。

②講義のポイント：リーダーにとって重要なのは以下の3点。

- ・第一人称で行動(人任せにせず、どうすべきかを考え、関係者を巻き込む)
- ・チームメンバー・関係者を良く理解し、各人の良い点を引き出して相乗効果を上げる
- ・ビジョン・目標を明示し、皆を引っ張っていく



③伝えたかったこと：皆さんにはたくさんの可能性がある。好きなことを見つけ、それを伸ばしていってほしい。またリーダーシップを常に意識して行動してほしい。

④感想：質疑応答でしっかりした考えを聞け、頼もしく感じた。自分もリーダーシップについて考える良い機会となった。株式会社日立製作所 ITプロダクツ統括本部 企画本部 広報部 部長

(84回生 眞田明美)

スポーツ関係の小さな会社で事務職として働きながら、今年春に鍼灸師の資格を取得しました。講義では、「職業=働くこと」には多様な側面、例えば生計維持の手段(稼ぎ)、個性発揮の場(やりたいこと)、社会的役割の実現(務め)

など、があること、それらを一つの「職業(仕事)」で実現しなくてもいいんじゃないかという提案をさせていただきました。皆さんから頂いた質問に答えることを通して、自分にとっても学びの多い時間となりました。有難うございました。株式会社侍、鍼灸師

(105回生 荒川あゆみ)

## 生徒感想

●新しいリーダーを求めている時代はないと言われて、確かに今までの時代を振り返るとそうだなと感じた。より組織で大きな利益を出させることがリーダーの役目であることを学んだ。

(3年生) <第1講座>

●今、地方のお金や人はどんどん都市の方へ出て行ってしまっているので、少しでもいいから地方のリーダーになってほしいと思われていると分かった。今後は世界的な競争が激しくなり、その中で勝つのは一握りだそうなので、学校の勉強でベースの基礎を身につけ、学校の生活の中でコミュニケーション能力や自分から行動する力をつけたいです。

(2年生) <第2講座>

●私は浜さんのお話を聞いて、特に「疑

講座	講師氏名	勤務先
第1講座	中村 博 (72回生)	八十二銀行 (元)代表取締役副頭取
第2講座	小林豊茂 (84回生)	八十二銀行執行役員人事部長
第3講座	浜 典幸 (76回生)	セイコーエプソン(株) 前代表取締役専務
第4講座	船木正也 (80回生)	長野放送(株)常務取締役
第5講座	岡 奈津子 (90回生)	アジア経済研究所 主任研究員
第6講座	浜 まゆみ (96回生)	世界的マリンバ奏者
第7講座	荒川あゆみ (105回生)	元博報堂・鍼灸師
第8講座	眞田明美 (84回生)	株式会社日立製作所



う」ということをこれから大切にしていきたいと思いました。疑ってそのもの、この本質に気づけるようになりたいです。そして、考え抜いたり正直に謝ったりすることを心がけて、信頼関係を築きあげていきたいと思いました。それから意思表示を大切に、自分から行動できる人にもなりたいです。

(2年生) <第3講座>

●学生時代には、自分が楽しい充実した生活を送り、いろいろなことに挑戦し、何かこれだけはこのものを見つけ、それを極めたいと思いました。それは必ず将来役に立つと思います。自分に目を向け、自分には何が向いているのかをしっかりと考えていき、自分なりの哲学を見つけていきたいです。

(2年生) <第4講座>

●私が一番驚いたことは清陵を選んだ理由が留学をしたいからだったということです。岡さんの話を聞いてグローバルだと感じたことは、カザフスタンでロシア語の本を出版したということです。自分の研究を活かすという、できそうでできないことをしているのととてもすごいと思いました。(2年生) <第5講座>

●「やりたいこと」を仕事にできることが幸せで、今からそれを探していくことが大切だということがわかった。1番良いのは、その「やりたいこと」で社会に、

世界に貢献することで、それがグローバルに生きるということなのではないかと思う。(2年生) <第6講座>

●私は荒川さんの「失えばまた取り戻せばいい、欲しかったらまた取ればいい。やらずに後悔するより、やって後悔する方がいい」という言葉にとても感動しました。失ったらもう取り戻せない、そんなこと絶対はない。欲しかったらまた取りに行けばいい。これから私は、やらずに後悔するのではなく、やって後悔することのできる人になりたいです。そして、失うことを怖がらずに生活していきたいです。(2年生) <第7講座>

●儲けるということは、人に「信」じられる「者」が儲けるとおっしゃっていた。信頼関係は社会や普段の生活の中でも大切なことであると分かった。人との関わりを大切にしていきたいと思った。

(3年生) <第3講座>

●リーダーを育成するためには、資質や能力というものは必要なく、諦めなければ能力はいくらでもついてくるので、諦めずに挑戦することが大切だということが分かった。(3年生) <第7講座>

●眞田さんは世界の人と仕事をする上で常に世界のことを考え、気づかうことを大切にしているということを知るのが印象に残りました。リーダーになるために必要な資質能力は「第一人称で行動する」ことであると聞いて、一歩前へ踏み出すことを大切にしていきたいと思いました。

(2年生) <第8講座>

●わからなくても、そのままになっていることが多いから、わからないことは徹底的にわかるまで質問していきたい。また、「ダイバーシティ」「美点凝視」は自分にできていないことだと思うので、

しっかりと意識をしなくては行けないと思った。(2年生) <第8講座>

### 総評

グローバルに、そして各方面のトップランナーである講師の方々が語る、自分自身の挫折、困難。そしてそれを乗り越えていく様子を聞いていくにしたい、生徒の姿勢は前のめりになり、表情は真剣になっていきました。さまざまな経験が人を作っていくのだということは、その謙虚で真摯な語り方や投げかけからも伝わってきました。

「〇〇さんのように物事を前向きにとらえたい」というような生徒も声も聞かれました。私自身も写真を撮りながら各会場を回っていたのですが、自然と話に引き込まれ、シャッターを押すことをしばしば忘れて聞き入ってしまいました。「自分」を持って生きている講師の方々からは自然に挫折や困難を克服してきた人が纏う「自分を信じる力=自信」が放射されており、その熱が生徒の強い憧憧を生んだのではないかと感じました。

地域開放講座では、各界で活躍されている講師の先生方から、学校現場では普段なかなか聞くことができない貴重なお話をうかがうことができました。第七講座の荒川あゆみさんが、「自分がしたいこと、できること、やるべきことが重なるのが、理想の仕事」、「自分の人生においてリーダーは自分」という言葉が大変印象的でした。各講座で、ご自身の学生時代のお話から、社会に出て働くということ、リーダーに求められることまで、講師の先生からの熱いメッセージを受け取っている生徒の姿がありました。ありがとうございました。

(附属中学教員 名取克裕)

「おばあちゃんの味」のアップルパイの専門店

# GRANNY SMITH (グラニースミス)

長野と青森の農家さんから届くりんごをたっぷり使った手作りアップルパイのお店です。



株式会社ファンゴー  
代表取締役 関 俊一郎 (89回生)

<p> 青山店 東京都港区南青山 5-8-9</p> <p> 銀座店 東京都中央区銀座 5-2-1 東急プラザ銀座 B1F</p>	<p> 渋谷店 東京都渋谷区渋谷 2-21-1 渋谷ヒカリエ B2F</p> <p> 三宿店 東京都世田谷区下馬 1-46-10</p>	<p> 吉祥寺店 東京都武蔵野市吉祥寺本町 1-5-1 吉祥寺パルコ 1F</p> <p> 横浜店 神奈川県横浜市中区新港 1-1 横浜赤レンガ倉庫 2号館 1F</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**ONLINE SHOP**

楽天市場から  
通販のご注文も  
承っております



**WWW.GRANNYSMITH-PIE.COM**

## 附属中学「東京研修旅行」で 職場見学受入れ

諏訪清陵高校附属中学校が開学して4年。3年次における『研修旅行』も2回目を迎えることができました。本校の教育目標である『明治28年以來の伝統に培われた「高い学力」「広い視野」「強い意志」を基に、21世紀の社会に貢献できる優れた人材を育成する』ということから、『多様な経験を積み且つ本物に触れる』機会を設け、生徒自身の気づき、そこから始まる探求の世界へとつなげていくことを目的として、この研修旅行を計画してきました。清陵での生活から将来どのような世界が広がっていくのかを感じ取ってもらいたいと考えています。

### 生徒感想

#### ●竹村結 (現高校1年)

私は本格的に将来の進路を考えていく中で、どのように職業を決めればよいか迷っていました。しかし、同じ食堂でお昼を食べたり、普段は入れないようなところを見せていただいたりと実際に働いている方を間近で見たこと、また、人生の先輩方の生き方に触れたことで自分の視野を広げることが出来ました。お話をお聞きする中で「その職業を目指した理由ではなく、なってからどのように働くか」が大切だと知り、将来への希望も大

### 見学先一覧

JFEエンジニアリング株式会社

株式会社三菱UFJ銀行

エスエス製薬株式会社

株式会社ユニクロ

FCG：フェアコンサルティンググループ

清水建設株式会社

株式会社電通

日本テレビ放送網株式会社

株式会社日立製作所

陸上自衛隊

KDDI株式会社

双日株式会社

東京高等裁判所

株式会社電通国際情報サービス

株式会社ブリヂストン

株式会社岩波書店

きくなりました。本当にありがとうございました。

#### ●松木ひかり (現高校1年)

私は岩波書店を見学させていただきました。私は読書が好きで、製本の過程にも興味を持っていましたが、その職業に関わっている方々と直接話す機会はありませんでした。今回、岩波書店の方々から、製本へのこだわりなどについてお聞きし、その中で、仕事に対し誇りを持っているということが感じられました。今後、自分が目指す職業を考える上で、誇りをもって働けるか、ということも視点の一つとして意識していきたいと思いました。

#### ●林来樹 (現高校1年)

私は、自分の将来像や学習展望を意識化するという目的の下、研修旅行にて日立製作所を訪れた。最先端の研究や開発の様子を、直に観て、聴いて、触れることで、自分の歩みを感じる事が出来た。やはり、実際に足を踏み入れ、実物を肌で感じるということはきわめて重要であり、清陵でしか味わうことのない Academic communication の最大の利点であると身に染みて実感した。この貴重な体験を、高校だけでなく、さらに広い舞台を見据えて活かしたいと思う。

#### ●松田朋也 (現高校1年)

私は今回企業訪問をして企業はどのようなことをしていてどんな人材を求めているのかがよくわかった。今までは企業を訪問したことはあったが、企業の設備を見て、そこで働いている人の意気込みなどを聞くことが多く、どのような人がその企業に入れるかなど本質に触れたようなことは聞いてこなかったからである。今回、物事の本質がわかったことで何が自分に足りないかが理解できたためこれからは勉強だけでなく発想力など自分に足りないことを磨いていきたい。

### 総評

研修旅行最終日の実施で、かつ1時間から1時間半という短い時間ではありましたが、『本物に触れる』ということを目的として行われたこの活動は、夏に実施した“職場体験”とはまた異なった刺激を生徒に与えてくれました。すぐに日々



の生活が改善されることはありませんが、将来を考える礎となるよう今後の指導に活かしていきたいと思います。ご協力いただきました諸先輩方に、心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

(前教頭 加藤尚也)

### 見学先担当者より

2017年11月10日に、株式会社ブリヂストンの技術センターを訪ねいただきました。ブリヂストンは、タイヤ事業の売上高、世界No.1の会社です。

最初に、「ブリヂストン TODAY」を見学。ここは、ゴム、タイヤ、ブリヂストンの情報を紹介する展示館です。次に、世界一大きいタイヤ（直径約4メートル、重さ約5トン）の前で記念撮影。最後に、開発の現場を見るために、デザインルームで、タイヤデザインの創作を目の前で見てもらいました。デザインは、単に外観だけではなく、お客様の価値や、基礎技術の集大成であることを理解いただきました。今年度も、ぜひ訪問ください。株式会社ブリヂストン 広報・ブランド戦略担当フェロー (73回生 原秀男)

私の入社は昭和55年。社内は魑魅魍魎な番組作りの先人達だらけの時代。私の入社希望理由は、大学時代にハマった芝居をあきらめきれず、勇気もないので役者になるきっかけができるかも？と不純な動機でからでした。毎日が笑い話な仕事生活が続くのですが、今から20年ほど前、テレビ局という漠然とした会社は「メディア産業」「株式会社」へと強く意識することとなり、番組制作をはじめ働き方の改革が求められ、魑魅魍魎は卒業し、会社はぎゅちりとした組織へと変貌しました。大きく変わったテレビ



局の何を見せてあげるべきか少々悩ましかったのですが、やはり放送の役割と基本である生放送、ニュースの現場を見せてあげるのがベストだろうと思い、清陵OBである矢島学（93回生）アナウンサーが生でニュースを読む報道スタジオ、昼の帯バラエティー「ヒルナンデス」の生放送を見学してもらい、その間に準備から放送、伝えること、一つになって働く人々を肌で感じてもらうこととしました。見学した生徒さんたちが就職するころテレビ界はさらに違った形になっているはず。その時自分は何のパートでテレビに参画したいのか、それを考えてもらえる会社見学になっていれば幸いです。日本テレビ社員数はおよそ1,200人  
日本テレビ放送網株式会社 編成局  
(78回生 川村益昭)

会社概要：1804年創業の建設会社。コーポレートメッセージは「子どもたちに誇れる仕事を。」世界遺産にもなった東京・上野の国立西洋美術館本館の施工は当社です。

見学ポイント：自分を鑑みて、中学生で将来選択する職業と思い描いている夢を重ねることは難しいと思い、建設会社の職場紹介というより弊社が思い描いている夢をお話しました。これからの地球環境の新しい豊かさを求めた未来構想プロジェクトで、未来環境都市「GREEN FLOAT」と深海未来都市「OCEAN SPIRAL」の二つを紹介しました。詳細は弊社HPでご覧になれます。後日、学生さんからはスケールの大きさのすごさ、未来の世界のために様々な実験をしている姿が魅力的といった感想を頂きました。後輩達に伝えたかった事は、今はたくさ

んの好きなことに興味を持ち、たくさん好きなことを続けていって欲しいということです。

下諏訪出身。早稲田大学理工学部建築学科卒。現在、清水建設（株）設計本部 業務施設設計部 部長  
(82回生 竹内雅彦)

附属中学の「OBの職場訪問」を受けて

私は裁判官（判事）として東京高等裁判所（第11民事部）に勤務していますが、昨年11月10日、附属中学の生徒8名の「OBの職場訪問」を受けました。まず、実際の法廷を短時間傍聴してもらい、続いて、「裁判所の概要」、「法曹（法律実務家）と裁判所職員について」、「職業としての裁判官」というテーマで、私からの説明と質疑応答の時間を持ちました。最後に、法服を着て法壇（裁判官席）に上って法廷気分を味わってもらいました。裁判官は、憲法上の身分保障と職権行使の独立性が認められており、「自反而縮雖千萬人 吾往矣」を地で行くことができる稀有な職業ですという話をしました。東京高等裁判所 判事

(83回生 宮坂昌利)



## 高校「キャリア教育」に講師派遣

平成29年度、第1回諏訪清陵高校キャリア講演会が平成29年11月3日（金）に行われました。

以前より同窓生の皆様から母校の活動に直接的に関わることはできないかというご提案をいただいておりますが、今回、9名の方にご講演をいただきました。講師の皆様には中味の濃いお話をいただき、参加した高校2年生は自己の進路決定に向けて大きな刺激を受けたことと思います。

いろいろな場面で同窓生の皆様とお話をする、「生徒に話を聞かせたい」「生徒に向けて話したい」というお声をたくさんうかがいます。今回をきっかけに多くの皆様にご参加いただけるような企画に発展させていきたいと思っております。できれば講師登録システムのようなものをつくり、生徒の希望もとってウィンウィンの会にしていけると最高です。次回もよろしくお願いたします。（加藤元教頭）

## 講師より

私は高校2年生の娘がおり、同学年の後輩達が持つ考えを聞きたい思いもありお引き受けした。講演会は、私の大学進学から就職決定、キャリア（2度の合併の話も含め）の話をした。質疑応答時、銀行の貸出業務、「半沢直樹の話はリアルにあるのか？」等、業務に対する具体的なイメージをした質問（予想外の展開）あるも、学生の大半は、私の学生時代と変わらず将来仕事については進学選択に多少絡めて考える段階で、少し安心した。自分も45歳となり、これからの人生を考える上で自身を整理する機会をいただいた。学生の皆さん（私も）、おおいに悩んで、考えて、多少の失敗も経験しそこから学び、これからの出会いそして、自分を大切に、人生を切り拓いて欲しい。（原豊 94回生、三菱UFJフィナンシャルグループ）

私は総合商社で働いている立場から「グローバルな舞台で働きたい皆さんへ」と題してお話させていただきました。自身の生い立ちや清陵時代のエピソードも交

## キャリア講演会講師

ジャンル	氏名	
法学	南保勝美 (78回生)	明治大学法学部教授
金融	原 豊 (94回生)	三菱UFJフィナンシャルグループ
経済	金子哲哉 (89回生)	丸紅経済研究所 経済調査チーム長
経営	小林広治 (94回生)	株式会社ズナキャスト 経営コンサルタント
社会	伊藤貴子 (94回生)	ユニクロ CSR
医学	高木希奈 (99回生)	精神科専門医
理学	小口 高 (84回生)	東京大学空間情報科学 研究センター
理学	小平秀一 (85回生)	海洋研究開発機構
工学	村田和広 (87回生)	株式会社SIJテクノロジ 代表取締役

えつつ、私が心血を注いだ宇宙開発ビジネスを中心にグローバルな総合商社の仕事について説明し、最後に生徒の皆さんへのメッセージを伝えました。講演後には何人かの生徒さんから仕事や勉強に関する質問をいただき、頼もしく感じた次第です。今は様々な先端技術が世の中を劇的に変えようとしている、大きな時代の転換点にあります。こうした中で、清陵の後輩の皆さんには、進路についてしっかり自分の頭で考え、人生を力強く歩んでほしいと願っています。

(89回生 金子哲哉、丸紅経済研究所  
経済調査チーム長)

研究者人生、技術開発そして起業  
～私のしくじりと成功?～

私は、高校卒業後、東北大学工学部・大学院、博士号を取得し、当時の通産省傘下の電子技術総合研究所（現在の産業技術総合研究所）に就職し、ナノテクノロジーの研究を経て、世界最少レベルの液滴を吐出するインクジェット技術を開発し、2005年にベンチャー（株）SIJテクノロジーを創業し、現在社長を務めております。講演会での要旨を簡潔書きにしますと、

研究者にはマルチな才能が必要。（研究者＝脚本家&俳優&大道具&小道具&広報&経理etc.）無駄な知識はない。好奇心を持ち貪欲に。

理系・文系の区別は、意味がない。（例：

人工知能には心理学が、経済にはソフトウェア技術（ブロックチェーン）が不可欠）

研究スタイルは人それぞれ、芸術品を作るタイプ、荒野を切り拓くタイプなど。自分の武器を見つけ磨きまそう。

英語は大事。世界に目を向けよう！（高校時代に英語を捨てた反省）

不可能はない未可能（今は可能ではない）なだけ。

青春時代のサッカー雑誌に載っていた某スポーツ用品会社の宣伝文句で締めくくりたいと思います。“Challenge more!～限界を決めてしまうのは自分だ!～”（87回生 村田和広、株式会社SIJテクノロジー代表取締役）

仕事柄、様々な方に地震や地球科学の講演をすることがあり、一度は母校で講演してみたいと思っていました。今回その念願がかないました。当日は2011年東北沖地震の際、最前線の研究現場はどのようにしてあの巨大地震の姿を明らかにしていったかを中心に話をしました。限られた時間の中で、自然と向き合う研究の面白さや、これまでの経験、高校時代の様子など、すべてを語るのとはなかなか難しく、後輩たちに何らかの影響を与えることができたかは定かではありません



ん。今の高校生、大学生は皆さんそうなのでしょうが、清陵高校の生徒さんたちも大変まじめに講演を聞いてくれました。その反面、生意気に講師をやり込めようとする生徒さんがクラスに一人二人はいてもこちらとしては面白かったかな、と勝手に思ったりもしました。初めての母校での講演できちんと私のメッセージが伝えられたか、甚だ不安ではありますが、大変貴重な機会を与えていただいた東京清陵会の皆様、清陵高校の先生方に深く感謝いたします。

(85回生 小平秀一、海洋研究開発機構)

※2018年度の継続支援に際して、講師、職場見学受入れにご協力いただける方は、まず事務局にメールください。候補登録します。学校生徒の要望により決定しますので、ご依頼しない場合もありますが、ご容赦ください。

## 柳澤寿男さん(93回生)のコンサート

柳澤寿男さん(93回生)が音楽監督・指揮者を務めるバルカン室内管弦楽団が9月に来日公演を行います。9月17日の名古屋公演を皮切りに、9月20日(木)小金井・宮地楽器ホール、翌9月21日(金)東京第一生命ホール、9月23日(日)岡谷・カノラホールの演奏会が予定されております。

ご存知の方も多いと思いますが、柳澤さんは、2013年8月から「世界平和コンサート・プロジェクト」を始動、2014年にはサラエボ100年を記念してサラエボで第九演奏会を開くなど、「音楽は国境を超える」をモットーに幅広い活動を続けておられます。

**9月20日(木)宮地楽器ホール**  
(JR武蔵小金井駅前) (全自由席2,500円)

19:00開演 18:00開場  
演奏曲: 弦楽セレナーデ(ドヴォルザーク)、第九(ベートーヴェン)  
管弦楽: バルカン室内管弦楽団・世界平和コンサートへの道管弦楽団 ソリスト: 石上朋美・鳥木弥生・村上敏明・小林由樹 合唱:

世界平和への道合唱団 特別出演: 秋野暢子

合唱団には、同窓生から寺島亮三(58回)、小川勝嗣(59回)有賀嘉信(61回)、小平聡(75回)が参加の予定です。

**9月21日(金)東京第一生命ホール**  
(全自由席4,000円)

19:00開演 18:00開場  
演奏曲: 交響曲「イタリア」(メンデルスゾーン)、ラプソディーインブルー他  
管弦楽: バルカン室内管弦楽団 特別出演: 辰巳琢磨・藤井隆太・山下洋輔

**9月23日(日)岡谷カノラホール**  
(全自由席3,500円)

14:30開演 13:30開場  
演奏曲: 第九(ベートーヴェン)他  
管弦楽: バルカン室内管弦楽団 ソリスト: 石上朋美・鳥木弥生・村上敏明・与那城敬  
合唱: 長野県77全市町村特別合唱団 特別出演: 八神純子

### チケットお問い合わせ

◎指揮者柳澤寿男後援会 090-7009-6985 ◎toshio.kouenkai@docomo.ne.jp  
◎バルカン室内管弦楽団日本公演2018実行委員会(学習音楽アカデミー内) 06-6347-7911

## 同期会活動紹介 ～62回生～

## 諏訪清陵62回生喜寿祝い東京同年会

平成29年7月7日、東京千代田区の主婦会館プラザエフに、女性5人を含む45人が出席して開かれた。

宮澤生行代表幹事が「清陵を卒業してから60年。喜寿の祝いの開催となったが、こんなに多くの元気な顔触れがそろった。お互いにますます健康で余生を楽しみたい」と開会の挨拶。

特別講演は、同期生の斎藤信男慶応義塾大学名誉教授が「情報技術と社会」と題して、AI（人工知能）と人間の思考力は同じになる一などと科学技術分野の将来を語った。

懇談では、この日が誕生日の藤森郁男竹屋社長が頑張りぶりを披露するなど、出席者から喜寿を節目に更に人生への心意気を示す声が出ていた。

福引のお楽しみは「長生き賞」で諏訪

特産の竹屋みそ、寒天など、「生涯読書で賞」は出席者各自が持ち寄った推薦本32冊をくじ引きした。

最後に声高らかに校歌第一、第二を歌い上げ、3年後の傘寿の祝いは上諏訪温

泉でやろうという提案があった。

なお、62回生276人のうち既に56人、5人に1人が逝去しており、当日、会場には故人名簿、白菊を供えて冥福を祈った。（62回生 中谷範行）



## 同期会活動紹介 ～65回生～

## いつまでも青春と浪漫と吾往矣を語りたい

65回生東京同年会は、有志が新宿「大信州」に集まって以来約50年。「かっぱうせいりょう」生越万理子さん（66回生）に13年間お世話になりその頃から大盛会となった。美味酒肴とご家族あげてのご支援に大変感謝。「神田シティホテル」金子充宏君には7年お世話になり有難かった。当時は諏訪からも何人か参加。当初から会を引っ張ってきてくれた古村浩三（故）、御子柴英夫（故）両大幹事長が故人となられたのは誠に残念である。

毎年6月5日開催が恒例。この三年間、卒業後初めての友の出席が続き、実に嬉しい。会えば一瞬でその頃に戻る。そしてそれからの様々な人生にリスペクトの念を強くする。お互いそれぞれの“吾往矣”で半世紀を生き抜いてきたのではないのでしょうか。何の遠慮もなく談論風発、近頃は健康論議で盛り上がる。

今年の会には、体調不良で暫く欠席だった友が頑張って出席、一同大慶讚。会っているだけで楽しいのです。昨秋にはり

ハビリ中の三澤康彦君を囲む集いを開いた。北大恵迪寮同室の三井嘉啓君（松本在住）が当時の青春を暴露し爆笑。寮歌やコカリナ演奏（河西靖浩君）を交えて青春ホットな懐かしい時間であった。体調理由で同年会出席を控える他の友にも、思いは同じ、エールを送ります。

昨年の会では小口太郎（16回生）の「琵琶湖周航の歌」百周年を嘉して全員で歌唱。太郎の初恋の相手（下諏訪町老舗菓

子舗に嫁した女性）などレトロロマンな解説付き。最後は校歌を大合唱。

ときには思わぬプレゼント。丹羽文雄、川端康成など多数の作家が愛用し“文学賞が取れる原稿用紙”と称される老舗「満寿屋」川口（小林）誠君から、原稿用紙を模した和紙メモートや一筆箋を頂いた。瀟洒な一筆箋は、麗しき婦人に……と思わせる浪漫の薫りを漂わせる。

東京同年会と別に諏訪に65回生全員



如水会館にて（2018年6月 東京同年会）



組織の同年会(40数年の歩み)がある。クラス幹事持回りにて毎年諏訪で開催。ボート、ゴルフや文学散歩・紅葉ツアー等の選べるイベント付きも楽しい。卒業50周年には各地から50名が参加(横谷温泉泊)。今年も10月に予定され、東京から多数の参加を期待したい。また、決まって毎月8日に上諏訪「いずみ屋」でフリーに集る「八日会」が十数年も続けられており、幹事諸兄の尽力に敬服する。諏訪同年会では卒業50周年記念誌「巢立ち」を発刊(A4判128頁)。先生や部活、

「安保市中行進」等の思い出特集、写真200枚、寄稿70数名・近況50数名が寄せられている。ある友は「この一冊は我が青春の全財産である」と。

清陵はいつも心に生きつづけています。



出張同期の集い(白井市)



卒業50周年記念誌「巣立ち」

いつまでも青春と浪漫と吾往矣を多くの朋と語り続けられることを願って。

付:同年会案内不達の方にはご寛恕を。  
noguthy0604@yahoo.co.jp 09046282334まで。  
(65回生 野口雄一)

## 同期会活動紹介 ~66回生~

# 東京碌々会(66回生)の活動について

清陵66回生は、現在「碌々会」という愛称で様々な活動を行っているが、首都圏における支部組織が「東京碌々会」である。本会は、生越万理子さんの料理店「せいりょう」に同期生が毎月集まっていたことに端を発する。しかし、十数年前に「せいりょう」が閉店。その後は赤坂や銀座の飲食店を転々する等の紆余曲折を経て、現在は八重洲の「扇寿司」(小林誠三氏 55回生のお店)で、奇数月の第三水曜日に定例会を開催している。定例会への出席者は毎回十名前後であるが、東日本大震災の直後を除いて、一度も休会したことはない。時折、信州や京都、新潟など遠方からの参加もあり、乾杯が済むとすぐに清陵時代にタイムスリップ、口角泡を飛ばす議論を飽くこともなく続ける。

定例会の他には、毎年11月に支部総会を開催。メール登録のない会員にも往

復葉書で案内を出し、参加を呼び掛けている。かつては市ヶ谷の私学会館等が集まったが、一昨年は九段下の文庫café「みねるばの森」に会場を設営。首都圏在住の22名が集まって近況報告のスピーチと酒宴。中には卒業以来はじめて……という会員もいて、会場の予約時間を延長するほど盛り上がった。

定例会や支部総会の他にも、昨春には「小石川植物園でのお花見」を実施。元園長の長田敏行君の案内で百花繚乱の園内を満喫後、小日向の切支丹屋敷跡を訪ね、後楽園の駅ビルで乾いた喉を潤しながら歓談。さらに「真夏の高尾山登山」、「新潟での碌々会」等を行っている。

特筆すべき活動としては、「古希記念の文集」の刊行を挙げたい。この企画は定例会の席で提起されたものだが、藤森元規君が世話役となり、諏訪をはじめ全国の会員に呼びかけたところ64編もの



小石川植物園でのお花見会

原稿が集まった。出来上がった冊子は200頁を超え、当時、東福寺管長であった遠藤経雄君の色紙をはじめ、個性あふれる記事で満たされ、コラムには過去の行事がちりばめられていて、貴重な活動の記録にもなった。

昨年の11月には諏訪からの提案で、碌々会総会を蓼科の「親湯」で開催。小雪がちらつく悪天候にもかかわらず50名が参集、闊達に近況などを語り合った。なお、総会は昨秋以外にも「還暦祝い」、「還暦から5年」、さらに「古希を祝う会」を開催しているが、「碌々会」というネーミングは、還暦祝いの会で河合三彦君より提案され、採択されたものである。

碌々会の会員はもうすぐ後期高齢者となるが、次の総会は東京碌々会が幹事を担う。一案として、来年に東京と諏訪の間での開催を考えているが、人生100年時代。何時までも壮健で、碌(石の意)のように頑固でごつごつした議論を戦わせたいためである。(66回生 樋口宗司)



九段下の文庫café「みねるばの森」にて

## ワーキンググループ活動報告

# 各種イベント 盛況に開催される

ここ数年、お馴染みの年間行事となりました「ワーキンググループ」の様々な活動、年々、内容に工夫が凝らされて、とても良い企画が多かったです。ぜひ、これからは、もっと多くの皆さんに参加していただければと思います。

## 第3回 働くことを考える若手の会

11月26日、第3回働くことを考える若手の会をNBC市谷田町ビルにて開催しました。前半のトークセッションは2時間半に渡り3名の先輩の経験をシェアし、後半のワークショップでは参加者の19名のこれまでの経験を話し、聞くことで、自分を振り返り、働くことについて学ぶ場となりました。

3名のスピーカーはそれぞれ、メディアで話題のお化け屋敷プロデューサーの五味弘文さん(79回生)、国税庁のキャリアから独立して税理士法人を立ち上げた細田明さん(86回生)、そして、セガという一つの会社でキャリアを積み上げた小口久雄さん(81回生)というプロフェッショナルの方々です。

スピーカーの皆さんの働き方を高校時代から含めて人生の浮き沈みをライフチャートという形で振り返ることで、若手の皆さんが未来について考える場にできたのではないかと考えています。ワークショップ形式でスピーカーを中心に3つのグループに分かれて、若手とベテランが話し合い、全体にシェアし、各人の人となり浮かび上がり面白いコンテンツとなりました。

参加された平林さん(119回)は「先輩方は働くことで何をしたいかをいちば

んに近いところで考えているのかなと感じました。私は、最近「やりたいこと」と「やるべきこと」が一致しないのではないかと考えたりします。そんな時にこの会に参加して、先輩方は良い時、悪い時のようないろんな経験の上で「やりたいこと」に辿り着いているという話を聞くことができました。ちょっとした就職の不安は同期と話すことも大事なことで、先輩方の話を聞くことで良い自信になり、とても良かったです」と自分が

ちょうど悩んでいた課題を先輩と一緒に考え、ヒントを得られたと思います。

この会では学生以外で東京清陵会への同窓会費の存在を知らない方、未払いの方に限っては参加費として2000円を徴収し、東京清陵会の年会費として納めてもらう事に成功しました。魅力的なイベントを企画し、参加費(年会費)をいただき、東京清陵会の持続性を高めることに繋がれば嬉しく思います。

(109回生 山川裕矢)

## 第5回ミドル交流会

3月5日、第5回ミドル交流会が剛堂会館にて開催されました。「御柱祭から解き明かされる清陵魂の起源とは？」～弱肉強食の西洋時代から多様性、調和の時代への変化を模索する現在(いま)、我々は何をすべきか～と題して、約3時間に渡りディスカッションが交わされました。

ゲストスピーカーとして、「NHKスペシャル 古代史ミステリー“御柱”～最後の“縄文王国”の謎～」の作成にあられた山本ディレクターをお招きしました。山本ディレクターは、長野支局での勤務経験のほか、「小さな旅 思い刻む湖～長野県 諏訪湖～」では、清陵端艇部の活動を取材されたこともあり、我々清陵生とは何とも縁の深い方です。

山本ディレクターのご説明ののち、あらためて全員で、NHKスペシャルを視聴しました。農耕民族の勢力が圧倒的となる時代、狩猟中心の諏訪人はどう抗い、そしていかに調和してきたのか。その中であって御柱の大祭が受け継がれた必然を共有しました。山本ディレクターからは、諏訪人の気質として、1) 排除ではなく受容の精神性、2) 地域から認められることにプライオリティがある点を指摘

いただきました。多様性、調和の時代へと変化を模索する現代にあって、われわれ諏訪人/清陵生のあるべき姿を再確認しました。

参加された守矢早苗さん(67回生)からは、祭りを受継ぐ事の重要性、そのために御柱の年にはやってはいけないこと、厳格なしきたりが存在する点が強調されました。また御柱は各地域の小さな催事が起源ではないかとの仮説が披露され、NHKスペシャルでは必ずしも断言できなかった「縄文時代に御柱祭は存在した」との説が説得力を持って語られました。

華乗りの経験を持つ有賀修二さん(80回生)からは、諏訪に帰って小さくても貢献を積み重ねることで、初めて地元の支持が得られるという経験をお話いただきました。東京にいる我々は、高見の見物となりがちです。貢献のための行動の重要性を痛感させられる機会となりました。

(91回生 藤森裕司)



## 2017年度 総会・懇親会の報告

# 東京清陵会 第51回総会・懇親会を終えて

2017年度の東京清陵会会報および総会・懇親会の企画運営は、84回生が担当させていただきました。会報および総会・懇親会において、「ささやかなる改革」を目標にいろいろと趣向を凝らしたつもりです。関係者の皆様方のご理解とご協力をいただき無事に終了できましたこと、厚く御礼申し上げます。ここでは前年度のご報告、感想などをまとめてみました。

●パネリストとしてお招きいただき、大変光栄でした。ファシリテータの矢崎治孝君と名古屋大学の西川俊夫君とは同クラス、NCNPの北条浩彦君とは同じ上伊那学生団、関西学院大学の金子忠昭君は私の元上司が今同じキャンパスで教授になっているなど、それぞれ繋がりがあり、大変リラックスして対談出来ました。企画運営にあたった幹事の労に心から敬意と感謝を表します。当日は同窓会運営の難しさや世代間の考えの違いもお聞きしました。ライフサイクルが変わる中、昔と今の55歳という幹事世代の立ち位置が変わっていることも考えさせられた1日でした。なお当日お話しした内容はブルーバックから「新しい1キログラムの測り方」と題して出版しました。機会があれば手に取ってみてください。(白田 孝)

●秋晴れの10月1日、当番幹事の84回生のオリジナル企画「科学の最前線を語り合う」でパネリストとして声をかけていただき、初めて東京清陵会総会に参加いたしました。共感を持った楽しい時間を過ごすことができました。清陵を出てから36年、多様な分野で活躍している同級生に会って励ましと力もらった感じ。振返ると根っこは同じ、あの時同じ場所で同じ時間を過ごした記憶につながっていました。母校、清陵でつながった一体感、連帯感を感じた一日でした。

(北条浩彦)

●総会終了後の赤羽俊昭君とのメールの遣り取りを見返すと「祭りの後の寂しさ」を記していました。その時はおそらく清陵祭終了時の寂寥感と重なったと思われる、それだけで個人的には総会とは何かを語り尽くした感があります。それでも「祭り繋がり」で少し駄文を記します。数年前目黒区民であった頃、自治会長の



義務とのことで町内の秋祭りで神輿の担ぎ手となりました。担ぎ手に身長差がある場合、高い方に重さがかかることを眼前が暗くなりながら身をもって知りました。ここで総会に戻れば、総会司会、コーラス隊、校歌斉唱等々、ある意味「神輿」となりましたが、多くの84回生が参画して準備段階から周到に積み上げ、実行段階で其々の任務を首尾よく完遂したこと全てが約30年振りの盛大な「祭り」に繋がったと確信しています。(大澤洋一)

●平成29年の総会・懇親会は、秋晴れの下、多数の同窓生にお集まりいただき、開催されました。懇親会の企画においては、パネルディスカッションの他、直近の清陵祭の録画映像上映や先輩による社交ダンスの披露などの新しい試みも

行いました。パネルディスカッションは、大学および研究機関で活躍する84回生によって、研究の先進性とその社会へのフィードバックをご披露いただきましたが、日常に埋没している筆者としては、憧憬を感じるものでした。総じて今回の同窓会は、お集まりいただいた皆さんの親交を深めていただいたにとどまらず、文化あり躍動あり(+お酒あり)の「大人の学園祭」の場になったのではないかと考える次第です。お集まりいただいた同窓生の皆さまに感謝いたします。

(小口和彦)

●51回目の懇親会を任された84回生は、同期生だけで盛り上がりがちだった歓談の時間に代わり、会場全体で楽しんでもらえるよう、様々なイベントを企画しました。ダンスを交えた開会挨拶、管楽アンサンブル、地元出身の歌手による故郷の歌の披露、清陵祭の映像公開は、いずれも同じ意図を持った催し物です。私たちのささやかな試みが、今後の懇親会運営のお役に立てば、これに勝る喜びはありません。

(赤羽俊昭)

## ふるさと 諏訪市からのご案内 ～諏訪市への移住に興味のある皆様へ～

### ふるさと回帰フェアに出展します！

諏訪市の移住相談ブースへ是非お越しください！

●日時：平成30年9月9日(日)  
午前10時～

●会場：東京国際フォーラムホールE (展示ホール)

●内容：諏訪市への移住相談・支援制度のご案内等

●申込：不要、当日直接会場へお越しください。

### 「諏訪の地酒でほろ酔いコン」を東京で開催！

諏訪の男性が東京に出向く、移住婚活イベントを開催！

●日時：平成30年11月23日(金/祝)  
午後2時～

●会場：移住・交流情報ガーデン (東京駅八重洲口近く)

●内容：女性向け移住セミナー、移住婚活イベント

●対象：諏訪への移住に興味がある独身女性

●申込：要事前申込、申込期間  
9月1日～10月31日

詳しくは諏訪市ホームページをご覧ください！

<お問い合わせ>

諏訪市 企画部 地域戦略・男女共同参画課 TEL:0266-52-4141

E-Mail: senryaku@city.suwa.lg.jp

# 会費ならびに賛助金納入ありがとうございました

## 2017年度会費納入者ご芳名(2017年4月1日~2018年5月31日までに入金があった方)(敬称略)

60回 池場 康友	62回 藤森 汎	64回 長島 潔	67回 樋口 善一	70回 高岸 洋夫	75回 小平 聡
60回 今井 將隆	62回 堀 浩泰	64回 新村 恩	67回 平林 千義	70回 竹村 善隆	75回 濱 興治
60回 小川 浩史	62回 松澤 洋充	64回 仁科 真爾	67回 藤井 光子	70回 土橋 務	75回 宮下 和彦
60回 小口 一老	62回 三澤 祥地	64回 林 直司	67回 増沢 和夫	70回 中谷 敬	75回 安木 良術
60回 河西 千廣	62回 宮澤 生行	64回 林 博優	67回 丸茂 義典	70回 中村 典男	75回 柳沢 治通
60回 河西 善美	62回 矢沢 征吾	64回 平林 正稔	67回 三井 敏彦	70回 浜 敬三	76回 石井 和夫
60回 金井 浩	62回 矢島 辰一	64回 藤森 弘	67回 宮坂 榮一	70回 平山 哲三	76回 北澤 道子
60回 北原 本夫	62回 山本 龍夫	64回 宮坂 秀	67回 守矢 早苗	70回 藤森 行雄	76回 関屋 孝行
60回 窪田 作栄	63回 荒木 信行	64回 横内 敏幸	67回 湯田 英人	70回 細川 芳雄	76回 田中 修
60回 小松 寛之	63回 有賀 朝彦	64回 横沢 治二郎	68回 赤羽 清明	70回 米澤 英樹	76回 田沼 唯士
60回 五味 竹正	63回 伊藤 茂久	65回 岩波 武功	68回 笠原 斉	71回 岩本 達雄	76回 中島 真一
60回 五味 良二	63回 伊藤 喜夫	65回 河西 靖浩	68回 小林 保雄	71回 北澤 一保	76回 花岡 博茂
60回 篠原 健	63回 海野 肇	65回 春日 芳夫	68回 名取 與平	71回 浜 研一	76回 藤森 政敏
60回 高木 祥勝	63回 岡本 隆之	65回 金子 充宏	68回 春山 明哲	71回 増澤 博和	76回 細川 信明
60回 高木 正喜	63回 小口 明秀	65回 小松 功	68回 深澤 豊昭	71回 森 史朗	76回 森田 益弘
60回 高橋 尚志	63回 小口 哲二	65回 関 紀雄	68回 藤森 照信	71回 森 さと子	77回 伊藤 潔
60回 永田 郷雄	63回 尾澤 弘久	65回 田中 揮一	68回 藤森 博彰	72回 飯澤 文夫	77回 小口 正行
60回 中野 誠	63回 河西 武彦	65回 浜 公雄	68回 古河 仁	72回 市村 敏夫	77回 春日 敏彦
60回 野澤 勲	63回 金井 英雄	65回 細川 直吉	68回 宮坂 静	72回 小口 邦雄	77回 金子 和男
60回 野沢 和雄	63回 鎌倉 了	65回 堀内 元雄	69回 一ノ瀬 輝海	72回 小口 裕治	77回 小林 初彦
60回 福島 清	63回 河合 信也	65回 松田 昌憲	69回 牛山 隆夫	72回 笠原 勇二	77回 田添 珠実
60回 堀内 進	63回 倉本 實	65回 松本 禎之	69回 川村 美枝子	72回 戸谷 裕造	77回 西村 いつみ
60回 増沢 豊久	63回 小池 三造	65回 山岡 建夫	69回 功力 正行	72回 林 健康	77回 堀田 康之
60回 宮澤 政文	63回 小松 廣茂	66回 小口 治	69回 小林 宏	72回 宮坂 文昭	78回 石埜 穂高
61回 川村 昌平	63回 五味 正得	66回 生越 万理子	69回 武村 光男	72回 矢崎 俊二	78回 東城 清秀
61回 北原 隆	63回 齊藤 亨	66回 笠原 昭重	69回 中村 正治	73回 浅川 辰司	78回 南保 勝美
61回 佐伯 三朗	63回 高木 宣輔	66回 金丸 敏夫	69回 濱 照彦	73回 和泉 桂子	78回 両角 寛文
61回 篠遠 哲夫	63回 藤森 宏一	66回 河合 三彦	69回 浜 初美	73回 笠原 正英	78回 松澤 佳子
61回 寺島 健司	63回 清水 洋右	66回 五味 洋	69回 林 文章	73回 窪田 敏	79回 飯田 良
61回 中村 隆一	63回 松野 洋一	66回 佐藤 武夫	69回 比田井 昌英	73回 熊谷 靖樹	79回 岩波 毅
61回 早川 次彦	63回 丸山 佳広	66回 武居 秀夫	69回 比田井 和子	73回 小池 隆昭	79回 小平 茂雄
61回 細田 純一	63回 溝口 登	66回 徳永 忠次	69回 藤森 光彦	73回 小林 正和	79回 高橋 則広
61回 松澤 良治	63回 蜜澤 裕二	66回 長田 敏行	69回 宮部 敏秀	73回 原 秀男	79回 椿 淑子
61回 宮沢 荘太	63回 宮坂 尚利	66回 林 央	69回 柳平 克利	73回 原 大	79回 中村 千代子
61回 山崎 宏三	63回 両角 實	66回 原 昭治	69回 柳平 三雄	73回 マディーン 啓子	79回 八嶋 美保
61回 山本 裕一	63回 柳沢 寛	66回 降幡 賢一	69回 山田 計夫	73回 三澤 伸二	79回 山口 光男
61回 横川 紀夫	63回 山田 勝稚	66回 宮坂 典子	69回 吉江 森男	73回 両角 誠	80回 青沼 裕之
62回 秋田 英一	63回 山田 清重	66回 宮澤 正幸	69回 吉川 仁	74回 岩本 敏男	80回 小池 昭夫
62回 上原 光典	63回 山田 善彦	66回 宮島 忠之	69回 渡辺 泰弘	74回 金井 良一	80回 畑 博明
62回 小口 普臣	63回 米山 迪男	66回 米窪 修明	70回 飯島 由美子	74回 金屋 芳樹	80回 畑 理子
62回 河西 巳喜雄	63回 亘理 美代子	67回 池上 志な子	70回 石田 和夫	74回 瓦井 昭二	80回 花岡 友子
62回 金子 浩之	64回 井澤 正行	67回 岩間 大和子	70回 垣内 国光	74回 北原 嘉泰	80回 宮下 幸彦
62回 北澤 夏司	64回 垣内 直	67回 小平 攻	70回 河西 広実	74回 窪田 修	80回 米澤 あ子
62回 小林 公人	64回 川村 洋二	67回 笹岡 仟治	70回 香山 寛	74回 五味 克成	80回 脇坂 守一
62回 小林 國利	64回 金原 恵介	67回 武田 英太郎	70回 唐木 康正	74回 土屋 彰男	81回 小口 久雄
62回 塩澤 瑞人	64回 五味 勝	67回 土橋 修平	70回 久保田 功一	74回 松縄 茂	81回 松原 雅子
62回 滝澤 文教	64回 篠原 八耳	67回 豊島 伸一	70回 功力 明美	75回 有賀 一温	81回 矢崎 理恵
62回 竹内 洋平	64回 清水 治弘	67回 名取 省三	70回 岩垂 進	75回 有賀 文彦	82回 青木 基浩
62回 長田 宏子	64回 祖父江 宏三	67回 原 美津子	70回 五味 憲一	75回 伊東 晴俊	82回 有賀 進
62回 浜 武秀	64回 武井 元昭	67回 林 武昭	70回 清水 英俊	75回 熊谷 知子	82回 飯田 健二



### けいの家 八王子本店

東京都八王子市明神町3-9-1 ☎042-649-1724  
月~金11:30~14:00、17:00~23:00、土17:00~23:00(定休日/日曜日)



### けいの家 八王子みなみ野店

東京都八王子市兵衛1-1-10 ☎042-683-4987  
火~土11:30~14:00、17:00~23:00、日17:00~23:00  
(定休日/月曜日)



### 龍神丸市場 八王子店

東京都八王子市旭町6-4 1F ☎042-649-7942  
月~金11:30~14:00、17:00~23:00、土17:00~23:00(定休日/日曜日)

### 高尾の天狗(舞姫酒造)と旬の味覚を楽しむ会

八王子市高月町の酒米を霧ヶ峰の伏流水で仕込んだ  
まさに東京(八王子)と諏訪の架け橋のお酒を飲みながら  
旧交を温め、親睦を図りませんか?

日時:11月11日(日)午後13時より

場所:けいの家八王子本店(定員50名様)

会費:5,500円 ※東京清陵会のみなさまは、特別価格  
5,000円とさせていただきます。

問い合わせは 042-649-1724まで。締め切り10月末日。

株式会社 開拓使 代表取締役 北澤秀彦(99回生)

82回 小野 隆吾	83回 真道 美恵子	84回 小口 和彦	84回 山田 陽一	89回 鮎沢 留美子	94回 米川 繁輝
82回 金子 勝彦	83回 田中 久規	84回 小田 一仁	85回 畑 宏芳	89回 岡 清美	96回 濱 真由美
82回 北原 譲	83回 中村 史枝	84回 金子 信	86回 猪股 顕文	89回 金子 武司	97回 川崎 剛
82回 行田 茂	83回 中村 美穂	84回 小海 健治	86回 加藤 正治	89回 金子 哲哉	98回 有賀 千博
82回 篠原 誠一	83回 藤森 京子	84回 笹金 奈津美	86回 谷 寿々子	89回 佐藤 吉英	99回 荒木 健太郎
82回 三井 哲志	83回 松崎 任宏	84回 眞田 明美	86回 波賀 かおり	89回 城取 重行	99回 北澤 秀彦
82回 村松 俊樹	83回 宮内 政彦	84回 島崎 義都	86回 武田 正利	89回 両角はるか	105回 小池 治樹
82回 渡辺 真一	83回 森 政宏	84回 清水 信次	86回 細田 明	89回 矢頭 智夫	109回 今村 七海
82回 渡辺 理恵	83回 矢頭 峰夫	84回 瀬戸 武	87回 北原 希至子	90回 荒井 要	109回 山川 祐矢
83回 猪井 秀彦	84回 赤羽 俊昭	84回 田中 茂	87回 藤森 克彦	90回 古村 雅利	109回 田村 朋果
83回 内川 昇	84回 飯田 秀機	84回 田邊 純子	88回 赤池 一馬	91回 北澤 久美	109回 小林 雄一
83回 岡本 徹	84回 上田 克郎	84回 野村 典亨	88回 佐藤 美智子	92回 西村 和訓	109回 足助 みわ
83回 倉田 重子	84回 牛山 吉彦	84回 林 昭彦	88回 須藤 美香里	94回 小林 広治	116回 小口 潤
83回 小平 俊史	84回 大久保 岳彦	84回 原藤 健紀	88回 中村 俊信	94回 原 実	
83回 小松 裕	84回 大澤 洋一	84回 藤森 弘	88回 増澤 浩一	94回 原 豊	
83回 真道 武彦	84回 大和田 敏子	84回 矢崎 治孝	88回 村山 光義	94回 宮下 正臣	

2017年度賛助金納入者ご芳名(2017年4月1日~2018年5月31日までに入金があった方)(敬称略)

38回 北原 文雄	57回 佐野川 日出雄	60回 高橋 尚志	63回 亙理 美代子	69回 武村 光男	79回 高橋 則広
42回 片桐 好	57回 清水 勝	60回 永田 郷雄	64回 垣内 直	69回 中村 正治	81回 小口 久雄
45回 岩波 一寛	57回 手塚 秀吾	60回 野澤 勲	64回 清水 治弘	69回 林 史章	82回 青木 基浩
46回 武井 清六	57回 弓削 純一	60回 福島 清	64回 祖父江 宏三	69回 比田井 昌英	82回 飯田 健二
47回 青木 枝朗	57回 横田 健次	60回 宮澤 政文	64回 新村 恩	69回 比田井 和子	82回 小野 隆吾
47回 平出 香	58回 赤羽 正臣	61回 川村 昌平	64回 仁科 眞爾	70回 久保田 功一	82回 金子 勝彦
48回 伊藤 恒好	58回 石城 浩吉	61回 篠遠 哲夫	64回 林 直司	70回 功力 明美	82回 北原 譲
48回 鈴木 徹	58回 小野 寿勇	61回 中村 隆一	65回 河西 靖浩	70回 平山 哲三	82回 篠原 誠一
48回 宮坂 勝郎	58回 上條 衛	61回 早川 次彦	65回 金子 充宏	70回 藤森 行雄	83回 岡本 徹
49回 会津 洋	58回 小林 秀文	61回 細田 純一	65回 堀内 元雄	71回 岩本 達雄	83回 田中 久規
49回 笠原 俊彦	58回 齋藤 寛	61回 横川 紀夫	66回 小口 治	71回 増澤 博和	83回 中村 史枝
50回 寺島 敏郎	58回 鈴木 由美子	62回 秋田 英一	66回 生越 万理子	72回 市村 敏夫	83回 中村 美穂
50回 野口 健児	58回 茅野 充男	62回 金子 浩之	66回 金丸 敏夫	72回 林 健康	83回 松崎 任宏
50回 宮坂 弘三	58回 寺島 亮三	62回 滝澤 文教	66回 河合 三彦	73回 浅川 辰司	83回 森 政宏
50回 柳澤 嘉一郎	58回 中澤 正衛	62回 長田 宏子	66回 五味 洋	73回 和泉 桂子	84回 赤羽 俊昭
51回 岩波 裕治	58回 堀田 裕人	62回 浜 武秀	66回 長田 敏行	73回 窪田 敏	84回 牛山 吉彦
51回 林 将雄	58回 宮坂 栄治	62回 藤森 汎	66回 林 央	73回 小林 正和	84回 小口 和彦
51回 横川 端	58回 宮坂 健二	62回 宮澤 生行	66回 宮島 忠之	73回 原 秀男	84回 小田 一仁
52回 白川 太一	59回 小川 勝嗣	62回 矢沢 征吾	67回 岩間 大和子	73回 原 大	84回 小海 健治
52回 林 尚孝	59回 小川 邦夫	63回 伊藤 茂久	67回 豊島 伸一	73回 マディーン 啓子	84回 藤森 弘
52回 渡邊 義郎	59回 金子 政喜	63回 伊藤 喜夫	67回 名取 省三	73回 三澤 伸二	87回 藤森 克彦
55回 上條 菅雄	59回 小松 守	63回 河合 信也	67回 林 武昭	74回 岩本 敏男	89回 金子 哲哉
56回 青木 亨	59回 清水 真幸	63回 小池 三造	67回 平林 千義	74回 北原 嘉泰	89回 佐藤 吉英
56回 河西 啓二	59回 城取 俊昭	63回 小松 廣茂	67回 丸茂 義典	74回 五味 克成	89回 両角はるか
56回 下平 勝幸	59回 津金 勝巳	63回 齊藤 亨	67回 三井 敏彦	74回 松縄 茂	89回 矢頭 智夫
56回 土橋 平治	59回 堀内 敏宏	63回 藤森 宏一	67回 守矢 早苗	76回 石井 和夫	90回 荒井 要
56回 原 隆昭	59回 宮川 良一	63回 清水 洋右	67回 湯田 英人	76回 関屋 孝行	90回 古村 雅利
56回 松見 佳樹	59回 向山 喜一	63回 松野 洋一	68回 小林 保雄	76回 田中 修	92回 西村 和訓
56回 渡部 清	59回 矢崎 悦郎	63回 溝口 登	68回 春山 明哲	76回 森田 益弘	94回 原 豊
57回 池田 賜恩	59回 矢崎 豊国	63回 宮坂 尚利	68回 深澤 豊昭	77回 春日 敏彦	
57回 今井 恒夫	60回 河西 善実	63回 両角 實	68回 藤森 照信	77回 小林 初彦	
57回 小林 浩	60回 窪田 作栄	63回 山田 勝稚	68回 藤森 博彰	77回 田添 珠実	
57回 五味 乙	60回 五味 良二	63回 山田 善彦	68回 宮坂 静	77回 西村 いづみ	
57回 坂本 宣夫	60回 高木 正喜	63回 米山 迪男	69回 功力 正行	79回 小平 茂雄	

信州諏訪の酒、真澄です。

●上質な真澄を最適な状態でお客様へ ●真澄でお客様の食卓を和やかに ●諏訪を元気にする酒蔵へ ●日本酒を世界酒へ

1662(寛文2)年の創業から350年あまり。真澄は昨年より一年分背筋を伸ばして四つの夢の実現に励みます。

皆様の益々のご健勝をお祈りいたしますと共に、真澄蔵元に倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



**東京清陵会の現況** データベースから東京清陵会の現勢を見ると次のとおりである(2018年3月31日現在)。1.東京清陵会会員の定義 (1)首都圏(東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、群馬、栃木)在住の同窓生(ただし、退会申出者を除く)。(2)転居して首都圏を離れたが支部会費を納入している同窓生。2.会員現勢 総数3,103名(住所不明者1,247名を除く)(1)都県別会員数 東京都1,428名、神奈川県636名、千葉県395名、埼玉県372名、茨城県66名、群馬県23名、栃木県24名、その他159名(2)年次別会員数(別表1)3.会費等納入状況(2017年4月～2018年3月会計期:2018年3月末現在)(1)納入者数会費390名、賛助金197名、合計454名(2)年次別会費納入者数(別表1)(3)年度別納入額および人数(別表2)

別表1 年次別会員数と会費納入状況(2018年3月31日現在)

回生	現員	不明	計	会費
～35	4	25	29	0
36	1	5	6	
37	2	3	5	
38	4	3	7	1
39	5	3	8	
40	3	5	8	
41	8	6	14	
42	11	5	16	1
43	15	2	17	
44	14	9	23	
45	15	5	20	1
46	23	11	34	1
47	22	5	27	2
48	42	6	48	3
49	53	6	59	2
50	51	16	67	4
51	66	20	86	3
52・55	89	12	101	4
56	87	6	93	7
57	89	12	101	10
58	73	10	83	13

回生	現員	不明	計	会費
59	84	11	95	12
60	88	22	110	23
61	75	13	88	13
62	93	7	100	21
63	89	13	102	32
64	74	13	87	19
65	73	11	84	13
66	71	22	93	17
67	93	12	105	19
68	69	25	94	10
69	97	18	115	20
70	86	25	111	21
71	71	27	98	6
72	55	15	70	9
73	78	15	93	12
74	68	25	93	9
75	57	18	75	9
76	58	21	79	10
77	61	18	79	8
78	67	33	100	4
79	66	14	80	8

回生	現員	不明	計	会費
80	77	6	83	8
81	72	14	86	3
82	53	23	76	12
83	72	31	103	16
84	57	21	78	24
85	49	42	91	1
86	45	36	81	6
87	35	29	64	2
88	30	46	76	6
89	44	51	95	8
90	40	29	69	2
91	23	39	62	1
92	22	46	68	1
93	17	31	48	0
94	24	20	44	5
95	13	30	43	0
96	18	34	52	1
97	13	23	36	1
98	7	31	38	1
99	9	12	21	2
100	6	19	25	0

回生	現員	不明	計	会費
101	2	12	14	0
102	1	5	6	0
103	2	5	7	0
104	0	2	2	0
105	1	0	1	1
106	3	5	8	0
107	1	0	1	0
108	2	12	14	0
109	5	9	14	5
110	2	13	15	0
111	2	4	6	0
112	2	1	3	0
113	11	3	14	0
114	6	1	7	0
115	7	2	9	0
116	16	0	16	1
117	6	1	7	0
118	20	6	26	0
119	21	0	21	0
120	17	0	17	0
合計	3,103	1,247	4,350	454

- 注 1) 現員:東京清陵会に登録されている会員で、現在住所が把握できている方  
 2) 不明:東京清陵会に登録されている会員で、現在住所が不明な方  
 3) 会費:前会計期(2017.4～2018.3)会費あるいは賛助金納入者の人数  
 会費免除会員(2017年度時点で80歳以上と25歳以下)の人数 1,174名

別表2 年度別会費等納入額および納入者数

平成23～25年度期納入額総計(2011.4～2014.3)	3,503,760円	637名
平成26年度期納入額総計(2014.4～2015.3)	2,072,000円	575名
平成27年度期納入額総計(2015.4～2016.3)	2,208,785円	530名
平成28年度期納入額総計(2016.4～2017.3)	1,761,000円	480名
平成29年度期納入額総計(2017.4～2018.3)	1,487,000円	454名

注) 平成17～19年度期以降の納入額には賛助金も含め会費等として処理している。

別表3 会員数と次期繰越金の推移

年	会員数(名)	不明者数(名)	次期繰越金(円)
2004	3,528	794	6,192,586
2005	3,410	894	8,217,342
2006	3,300	928	8,385,652
2007	4,000	698	8,627,401
2008	3,849	818	9,108,456
2009	3,822	813	9,075,532
2010	3,628	968	8,543,349
2011	3,595	960	8,677,237
2012	3,421	1,089	8,165,247
2013	3,363	1,123	7,491,435
2014	3,207	1,235	7,201,555
2015	3,173	1,250	7,421,091
2016	3,157	1,241	7,410,822
2017	3,103	1,247	7,130,622

- 注 1) 次期繰越金は各年の3月末現在  
 2) 会員数、不明者数は翌年の5～7月頃現在  
 2017年度(今期)は2017年6月末現在

2018年度収支予算(案)自2018年4月1日～至2019年3月31日(単位:円)

支出の部

科目	金額
総会費用	1,380,000
会議費	150,000
諸会費	90,000
印刷・通信費	180,000
事務雑費	10,000
会報費	1,000,000
清陵勉強会	60,000
HP運営費	100,000
予備費	30,000
小計	3,000,000
次期繰越	7,131,822
合計	10,131,822

収入の部

科目	金額
総会会費	1,380,000
会員年会費	800,000
賛助金会費	750,000
寄付金	50,000
預金利子	1,200
広告料	20,000
小計	3,001,200
前期繰越	7,130,622
合計	10,131,822

(注)2018年度予算の収支差額は1,200円の剰余金となります。

収支計算書(案)自2017年4月1日～至2018年3月31日(単位:円)

収入の部

科目	予算額	決算額	差異 (予算の方が)
1 会費	3,540,000	2,565,000	975,000
(1)総会会費(130+19名)	1,640,000	1,078,000	562,000
(2)会員年会費(390名)	900,000	780,000	120,000
(3)賛助金会費(120名)	1,000,000	707,000	293,000
2 諸収入	111,200	182,507	△ 71,307
(1)寄付金	50,000	60,000	△ 10,000
(2)預金利子	1,200	437	763
(3)広告料	60,000	120,000	△ 60,000
(4)その他	0	2,070	△ 2,070
当期収入合計(A)	3,651,200	2,747,507	903,693
前期繰越	7,410,822	7,410,822	0
収入合計(B)	11,062,022	10,158,329	903,693

支出の部

科目	予算額	決算額	差異
1 経費			
(1)総会費用	1,690,000	1,250,882	439,118
(2)会議費	300,000	255,611	44,389
(3)諸会費	100,000	53,500	46,500
(4)印刷・通信費	200,000	177,463	22,537
(5)事務雑費	10,000	14,830	△ 4,830
(6)会報費	1,160,000	1,198,657	△ 38,657
(7)清陵勉強会	60,000	60,000	0
(8)HP運営費	100,000	0	100,000
(9)予備費	30,000	16,764	13,236
当期支出合計(C)	3,650,000	3,027,707	622,293
当期収支差額(A)-(C)	1,200	△ 280,200	281,400
次期繰越(B)-(C)	7,412,022	7,130,622	281,400

寄付金:本部40,000円 学校10,000円 事務局10,000円  
 その他の収入:人名録2,070円  
 予備費:事務局移転費16,764円(ヤマト運輸)

# 東京清陵会役員(案) (任期 2018年11月~2020年10月)

会長	原 大 (73回生)※	幹事	小泉 和明 (46回生)	幹事	武田 正利 (86回生)
副会長	長田 宏子 (62回生)	幹事	宮坂 勝郎 (48回生)	幹事	波賀 かおり (86回生)
副会長	守矢 早苗 (67回生)	幹事	上原 秀秋 (49回生)	幹事	蟹澤 啓明 (87回生)
副会長	功刀 正行 (69回生)※	幹事	松木 庄師 (49回生)	幹事	北澤 聖 (87回生)
		幹事	笠原 哲次 (52・55回生)	幹事	須藤 美香里 (88回生)
会計幹事	小海 健治 (84回生)	幹事	五味 英明 (58回生)	幹事	藤森 裕基 (88回生)
監査幹事	今井 恒夫 (57回生)	幹事	矢崎 悦郎 (59回生)	幹事	両角 はるか (89回生)
監査幹事	有賀 朝彦 (63回生)	幹事	篠原 健 (60回生)	幹事	藤江 美智 (90回生)
		幹事	宮澤 政文 (60回生)	幹事	古村 雅利 (90回生)
事務局次長	北原 譲 (82回生)	幹事	早川 次彦 (61回生)	幹事	太田 美和 (91回生)
事務局次長	小林 正和 (73回生)※	幹事	中谷 範行 (62回生)	幹事	小口 一貴 (92回生)
事務局次長	有賀 一温 (75回生)※	幹事	藤森 汎 (62回生)	幹事	仲田 優 (92回生)
事務局次長	関屋 孝行 (76回生)	幹事	徳留 淳朔 (63回生)※	幹事	溝口 浩司 (92回生)
事務局次長	米澤 あ子 (80回生)※	幹事	垣内 直 (64回生)	幹事	松本 悦明 (93回生)
事務局次長	矢崎 理恵 (81回生)	幹事	祖父江 宏三 (64回生)	幹事	原 豊 (94回生)
事務局次長	岡本 徹 (83回生)	幹事	金子 充宏 (65回生)※	幹事	宮下 正臣 (94回生)
事務局次長	赤羽 俊昭 (84回生)	幹事	林 央 (66回生)	幹事	田中 聡久 (96回生)
事務局次長	清水 信次 (84回生)	幹事	小平 攻 (67回生)	幹事	丸山 伸也 (97回生)
事務局次長	佐藤 美智子 (88回生)	幹事	小林 盛男 (68回生)	幹事	森 英一 (98回生)
事務局次長	荒木 健太郎 (99回生)	幹事	比田井 昌英 (69回生)	幹事	小口 博正 (100回生)
		幹事	一瀬 益夫 (70回生)	幹事	岡 真也 (101回生)
顧問	寺島 敏郎 (50回生)	幹事	久保田 功一 (70回生)	幹事	福島 洋一 (102回生)
顧問	林 尚孝 (52・55回生)	幹事	北澤 一保 (71回生)	幹事	三宅 大作 (104回生)
顧問	小川 勝嗣 (59回生)	幹事	市村 敏夫 (72回生)	幹事	福島 理雄 (105回生)
顧問	藤森 宏一 (63回生)	幹事	林 俊子 (73回生)	幹事	小池 伸 (106回生)
顧問	生越 万理子 (66回生)	幹事	両角 誠 (73回生)	幹事	久納 多恵 (108回生)
顧問	平林 千義 (67回生)※	幹事	北原 嘉泰 (74回生)	幹事	山川 裕矢 (109回生)
		幹事	平出 敏 (75回生)	幹事	小口 七海 (109回生)
常任幹事	鈴木 徹 (48回生)	幹事	金子 次男 (76回生)	幹事	小林 雄一 (109回生)
常任幹事	野口 健児 (50回生)	幹事	宮坂 英二 (77回生)	幹事	柳澤 広識 (110回生)
常任幹事	寺島 亮三 (58回生)	幹事	東城 清秀 (78回生)	幹事	山田 智衣 (110回生)
常任幹事	米山 迪男 (63回生)	幹事	宮原 佳彦 (78回生)	幹事	中村 太軌 (111回生)
常任幹事	春山 明哲 (68回生)	幹事	原田 健 (79回生)	幹事	田中 正明 (112回生)
常任幹事	林 健康 (72回生)	幹事	丸山 重久 (79回生)	幹事	北原 智啓 (113回生)
常任幹事	窪田 敏 (73回生)※	幹事	藤森 正樹 (80回生)	幹事	林 毅 (114回生)
常任幹事	マティーン啓子 (73回生)※	幹事	脇坂 守一 (80回生)	幹事	平林 怜 (115回生)
常任幹事	伊藤 せい子 (75回生)※	幹事	五味 正信 (81回生)	幹事	石城 陽太 (116回生)
常任幹事	後調 正則 (76回生)	幹事	安川 昌昭 (81回生)	幹事	太田 恵輔 (116回生)
常任幹事	石埜 穂高 (78回生)	幹事	篠原 誠一 (82回生)	幹事	笠原 千鶴 (116回生)
常任幹事	両角 寛文 (78回生)※	幹事	竹内 雅彦 (82回生)	幹事	帯川 恵輔 (118回生)
常任幹事	田中 達也 (81回生)	幹事	藤森 薫 (82回生)	幹事	五味 梨香 (118回生)
常任幹事	森 政宏 (83回生)	幹事	山田 実 (82回生)	幹事	茅野 理子 (118回生)
常任幹事	細田 明 (86回生)	幹事	小松 裕 (83回生)	幹事	小野 俊 (119回生)
常任幹事	金子 哲哉 (89回生)	幹事	飯田 秀機 (84回生)	幹事	平林 蒼音 (119回生)
常任幹事	藤森 裕司 (91回生)	幹事	大和田 敏子 (84回生)	幹事	由井 恭介 (119回生)
常任幹事	高林 祐介 (103回生)	幹事	矢崎 治孝 (84回生)	幹事	岡崎 佑樹 (120回生)
常任幹事	勝 美穂 (110回生)	幹事	加藤 正治 (86回生)	幹事	中山 茉優 (120回生)

※新任 (2018年10月総会承認により、11月より就任予定、なお、連絡役も幹事と表記)



## 第30回ゴルフコンペのご案内

会員の交流・親睦を兼ねてゴルフコンペを下記の要項で開催します。同期生などお誘い合わせのうえ、奮ってご参加ください。

- 日時: 10月13日(土) 8時50分集合 9時25分スタート
- 場所: 紫カントリークラブ あやめ36 西コース  
(常磐自動車道・柏I.Cから、約20分。つくばエクスプレス・流山おおたかの森駅で東武野田線に乗り換え、東武野田線「野田市駅」下車。タクシーで約10分)
- プレー代: 約19,000円(食事付) 会費: 5,000円  
参加希望の方は、☎03-3518-2385 スタジオパラム=清水(84回生)まで。  
FAXの場合は、住所・氏名・卒業回・連絡先を明記の上、お申し込みください  
(FAX: 03-3518-2386)。
- 幹事= 藤森宏一(63回生)、小海健治(84回生)

今年4月11日に行われた第29回ゴルフコンペ。12名が参加、優勝は小海健治さん(84回生)、準優勝は篠原剛さん(52回生)。



### 東京清陵会2017(平成29)年度事業報告

#### 2017 (平成29年度)

- 4・9 第1回事務局会議(本郷事務局)
- 4・18 南信同窓連第55回親睦ゴルフ会(中山CC)参加10校21名
- 4・18 第27回東京清陵会ゴルフコンペ(Jゴルフ鶴ヶ島)参加者9名
- 4・25 第163回清陵勉強会(剛堂会館)講師 中村美穂(83回生)
- 4・29 第26回寒水会、6・4 第27回、7・30 第28回、9・23 第29回、11・25第30回
- 5・13 常任幹事会(剛堂会館)出席者22名
- 5・20 南信同窓連第46回定時総会(ホテルメトロポリタンエドモント)参加18校81名
- 5・20 当番学年(84回生)第5回編集会議/進行会議(本郷事務局)
- 5・28 第5回新卒歓迎・学生交流会(アルカディア市ヶ谷)参加者38名
- 6・10 第2回オンナだけの大集会(Bistro Barnyard Ginza)参加者17名
- 6・24 清陵本部同窓会総会・懇親会(紅や)参加者374名
- 6・27 第164回清陵勉強会(剛堂会館)講師 清水訓夫(69回生)
- 7・1 第52回東京同窓連定期総会(アルカディア市ヶ谷)参加55校252名
- 7・1 当番学年第6回編集会議/進行会議
- 7・3 東京清陵会企画委員会(本郷事務局)
- 7・22 学年幹事会(剛堂会館)出席者47名

- 7・29 当番学年第7回編集会議/進行会議(海の幸)
- 8・10 会報「東京清陵会だより」28号発行 発送部数3,500部
- 8・22 第165回清陵勉強会(剛堂会館)講師 大澤洋一(84回生)
- 9・2 当番学年第7回進行会議(本郷事務局)
- 9・25 当番学年総会会場アルカディア市ヶ谷下見
- 9・30 当番学年第8回進行会議(本郷事務局)
- 10・1 第51回総会・懇親会の開催(アルカディア市ヶ谷)参加者188名
- 10・14 第28回東京清陵会ゴルフコンペ(紫カントリークラブ あやめ36東)参加者11名
- 10・15~16 第30回南信同窓連親睦旅行(川越・秩父方面)参加15校46名
- 10・17 東京同窓連第19回親睦ゴルフ会(本千葉CC)
- 10・17 東京清陵会企画委員会(本郷事務局)
- 10・24 第166回清陵勉強会(剛堂会館)講師 五味克成(74回生)
- 11・11 本部同窓会物故者慰霊法要(地藏寺)
- 11・18 南信同窓連第56回親睦ゴルフ会(中山CC)参加8校19名
- 11・26 第4回働くことを考える若手の会(NBC市谷田町ビル3階)参加者19名
- 12・1 南信同窓連忘年会

- (東天紅オペラシティ)参加18校74名
- 12・9 第2回事務局会議(本郷事務局)
- 12・12 第167回清陵勉強会(剛堂会館)講師 藤森克彦(87回生)

#### 2018 (平成30年度)

- 1・8 第31回寒水会、2・12 第32回、3・21 第33回
- 1・30 東京清陵会企画会議(サイゼリア新宿南口甲州街道店)
- 2・3 東京同窓連新年懇親会(アルカディア市ヶ谷)参加校49校 出席227名
- 2・24 本部同窓会常任幹事会(清陵会館)
- 2・27 第168回清陵勉強会(剛堂会館)講師 大久保智弘(69回生)
- 2・27 第1回編集会議(サイゼリア御茶ノ水駅前店)
- 3・4 第5回ミドル交流会(剛堂会館)参加者11名

### 訃報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます(敬称略)。

氏名	年次	逝去年月日
横内 春雄	41	2011/2/14
小池 作衛	42	2016/12/31
小平 祐	42	2017/11/26
宮坂 信	42	2017/1/19
鮎澤 進	43	2016/11/6
有賀 繁	43	2017/12/26
金田 康二	43	2017/7/9
根橋 正人	43	2015/7/14
赤羽 喜夫	44	2017/7/7
江口 秀男	44	2017/5/18
宮本 裕	44	不明
小田切 孝夫	45	2016/10/9
小池 禮三	46	2018/1/5
中山 兼徳	46	2016/12/24
上条 幸雄	47	2016/2/7
宮坂 禎一郎	47	2017/1/16
溝口 源三郎	48	2016/12/26
川窪 舜助	49	2017/5/11
牛山 久	50	2017/4/16
雨宮 公一	51	2016/11/1
鮎沢 嘗次郎	52	2017/2/16
大島 良美	52	2017/4/16
高林 良治	52	2017/10/2
立石 友男	52	2017/7/11
溝口 甫	52	2017/2/12
進藤 昭太郎	56	2016/12/5
高橋 長幹	57	2017/1/28
月岡 義明	59	2017/5/1
川村 敏樹	59	2017/5/23
野崎 年彦	60	2016/9/7
小林 幸雄	61	2017/1/6
林 宏一	61	2017/4/17
藤森 幹仁	61	2016/2/15
平林 英磨	62	2016/3/13
山田 勝稚	63	2017/12/18
小口 博道	67	2018/4/9
五味 徳彦	67	2016/10/11
馬場 民準	67	2015/10/1
山本 金男	67	2017/9/15
中野 寛	69	2015/8/14
橋爪 伸由	70	2016/12/9

●事務局にご連絡をいただいた方(本報会報第44号含む)を掲載

### 東京清陵会2018(平成30)年度事業計画(案)

- 1 第52回総会・懇親会の開催(10月7日・アルカディア市ヶ谷)
- 2 会報「東京清陵会だより」29号の発行(8月中旬)
- 3 常任幹事会、学年幹事会の開催(5月、7月・南部労政会館)
- 4 編集/進行会議(随時・八丁堀事務局他)
- 5 事務局会議(定例4、11月・目黒さつきビル)
- 6 第6回新卒歓迎・学生交流会の開催(6月3日・Bistro Barnyard Ginza)
- 7 第5回働くことを考える若手の会(プレ就活)開催(11月25日・場所未定)
- 8 第6回ミドル交流会の開催(2019年3月3日・場所未定)
- 9 第3回女子会の開催(未定)
- 10 清陵勉強会(原則偶数月の第4火曜日・剛堂会館他)
- 11 事務局・委員会制度の定着
- 12 会員情報管理の高度化・効率化(データベース整備とクラウド移行検討・実施)
- 13 東京清陵会ホームページの見直し・フェイスブック活用試行運用
- 14 懇親ゴルフ会の開催(4月11日、10月13日)
- 15 寒水会(伊藤長七研究会、小石川高校同窓会紫友会との共催)への参加
- 16 本部同窓会、南信同窓連、東京同窓連行事への参加
- 17 母校・生徒との交流の定着(講師派遣・職場受入れ体制の整備)
- 18 会則の整備・運営要領作成検討
- 19 役員改選
- 20 その他必要とする事業

### 事務局からのお知らせ

- 1 80回生以降の学年は、学年幹事を男女各1名選出をお願いしています。まだの学年は、同期でご相談の上、新たに選出された学年幹事の方を事務局アドレス宛メール願います(アドレスはP1頭部に記載)。
- 2 母校のキャリア教育講師派遣、中学研修旅行職場見学受入れなど母校連携を進めています。その中で、本部同窓会でも、現役社会人として活躍する人を知らしめ、後輩、生徒の励みにしては、との声がありました。特に当番幹事以降の学年は、ご同期で頑張っている方を男女1名を事務局アドレス宛に推薦ください(氏名、所属/分野、推薦理由)。扱いは学年幹事会などで相談します。
- 3 年会費は、会報同封の振込用紙にてお願いしています。振込みをお忘れの方もいらっしゃるようです。同期会などお集まりの際には、年会費振込み確認をお願いいたします。総会、行事の際は振込用紙を受付に準備しておきます。
- 事務局電話は、2018年7月1日より、080-3939-0266に変更されました。事務局長が所持しています。日中は対応できませんので、お問い合わせ等、なるべく、20~22時にお願いたします。日中でも夜間でも、つながらない場合は、メッセージまたは、メールを登録ください。折り返しご連絡させていただきます。よろしくお願いたします。tokyoseiryokai2017@ymobile.ne.jp